

小泉産業株式会社グループ コミュニケーションレポート

COMMUNICATION REPORT 2013



新しい着眼と独自の発想で 新たな価値を創造し 人と社会に夢と感動をつくり出します

編集方針

小泉産業株式会社グループは、CSR(企業の社会的責任)活動を報告するため2004年から毎年レポートを作成しています。
レポートには、目的とメディア特性に応じて、冊子とWEBサイトの2種類があります。

■ 冊子(本レポート)

本レポートは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのさらなる活性化を目的に、当社グループと社内外のステークホルダーの皆様との“対話”を中心に編集しています。お客様や協力会社をはじめ社外のステークホルダーの皆様からのご意見・ご要望を掲載するとともに、仕事に対する従業員の想いを多数紹介しています。

■ WEBサイト

CSR活動をできる限り網羅的に報告することを目的としています。「グループ全体」に共通した取り組みと、ステークホルダーや事業内容が異なるグループ内の主要2事業である「照明事業」「家具事業」に分けて報告しています。また、それぞれ「社会」「環境」への責任と課題、それらに対する取り組みについて報告しています。

▼「社会」と「環境」への取り組みWEBサイト
<http://www.koizumi.co.jp/csr/>



報告対象組織

本レポートでは、持株会社である小泉産業(株)と国内事業会社5社、合計6社の取り組みについて報告しており、その詳細は以下のとおりです。

- 小泉産業(株)
- コイズミ照明(株)
- コイズミファニテック(株)
- (株)ハローリビング
- コイズミ物流(株)
- コイズミ情報システム(株)

報告対象期間

2012年4月1日から2013年3月31日まで。
(当社2012年度)

発行日 2013年7月
(次回発行予定 2014年7月)

INDEX

編集方針	1
報告対象組織／報告対象期間	2
小泉産業株式会社グループの概要	3
小泉産業株式会社グループの製品領域	5
経営者からのメッセージ	7

特集

「子どもたちに希望の風をおくる」 学習デスク寄贈活動を展開	11
----------------------------------	----

コイズミ照明(株)の取り組み

取り組み① 中国から世界、日本へと広がる 良品計画様とのパートナーシップ	13
取り組み② 「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」を 一旦終了 四半世紀の歴史を、新たな形で継続・発展へ	17

コイズミファニテック(株)の取り組み

取り組み① 品質と安全性を確保しながら、 永く愛されるモノづくりを追求	21
取り組み② 高齢者の充実したセカンドライフのために 利用者の目線で多彩な商品を開発	25

(株)ハローリビングの取り組み

グループシナジーを活かし、 オフィスや店舗の省エネを提案	29
---------------------------------	----

コイズミ情報システム(株)の取り組み

勤怠管理や緊急時の安否が確認できる、 企業向け管理アプリを自社開発	30
--------------------------------------	----

コイズミ物流(株)の取り組み

東日本と西日本の拠点を中心に、 全国を網羅する物流ネットワークを構築	31
---------------------------------------	----

小泉産業(株)の取り組み

次世代の人材育成支援のためにインターンシップを実施	33
時代の変化に対応し、グループ全体で社会的責任を遂行 CSRマネジメント／環境マネジメント／コンプライアンス／ リスクマネジメント	35

KOIZUMI TOPICS	37
KOIZUMIブランドのあゆみ	39
小泉産業株式会社グループ各社の概要	41

快適空間を提供する価値創造型企業グループ

照明事業

「あかり文化」の創造をめざして



住宅照明と店舗照明を事業領域に、照明器具の企画・開発から各種空間の照明設計までをトータルに展開。あかりによる快適な空間づくりを通して、新しい「あかり文化」の創造と省エネに貢献できる製品の提供をめざしています。

コイズミ照明株式会社
照明器具の企画・開発・製造・販売

コイズミ照明デバイス株式会社
照明器具部品の販売および輸出入、照明器具組立

コイズミライティング株式会社
照明器具の製造

青垣コイズミ照明株式会社
照明器具の製造

小泉産業(香港)有限公司
照明器具の企画・開発・製造・販売

東莞小泉照明有限公司
照明器具の開発設計・組立製造・販売

克茲米商貿(上海)有限公司
照明器具の企画・販売他

東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
家電・照明器具の企画・開発・照明設計、品質管理等のコンサルティングサービス

家具事業

暮らしを「科学」し快適生活を提案



子どもの成長を支える「学習家具事業」を中心に、高齢者向けの自立支援家具や施設向けの設備家具事業を展開。人の暮らしを「科学」し、子どもや高齢者の健康・安全と環境に配慮した製品・サービスを提供しています。

コイズミファニテック株式会社
学習環境家具および介護機器などの企画・開発・製造・販売

小泉家具(大連)有限公司
学習環境家具の販売

コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
家庭用家具・店舗用家具・特注家具・店舗用什器の企画・開発・製造・販売

住設販売事業

インテリアから家電、内装材まで



各種インテリア製品や内装材などの住宅設備機器の販売・施工サービス事業を全国に展開し、快適な生活空間をトータルに提案しています。

株式会社ハローリビング
住宅設備機器の販売・取付工事

株式会社サンシャイン
住宅設備機器の販売・取付工事

コクブライト株式会社
住宅設備機器の販売・取付工事

物流事業

価値あるロジスティクスを創造



グループ内各社のロジスティクス機能を担う一方、培った経験とノウハウを活かし、幅広い業界のお客様に最適な物流ソリューションを提供しています。

コイズミ物流株式会社
物流事業・倉庫業・物流システム開発販売業務

情報システム事業

最適なシステム環境を創造



人間力と技術力により新しい価値を創造し、幅広い企業のニーズに応じたシステムの開発・運用・保守サービスを提供しています。

コイズミ情報システム株式会社
IT関連のソフト開発およびコンピュータ機器販売

グループ統括

「価値創造の専門集団」をめざして



それぞれの事業領域で専門性を発揮するグループ各社を統括し、KOIZUMIブランドの価値向上をめざしています。

小泉産業株式会社
持株会社として、グループ統括機能と各社の事業の管理・監督

小泉産業株式会社

本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7

代表者 代表取締役社長 梅田 照幸

創業 1716年(享保元年)

設立 1943年6月25日

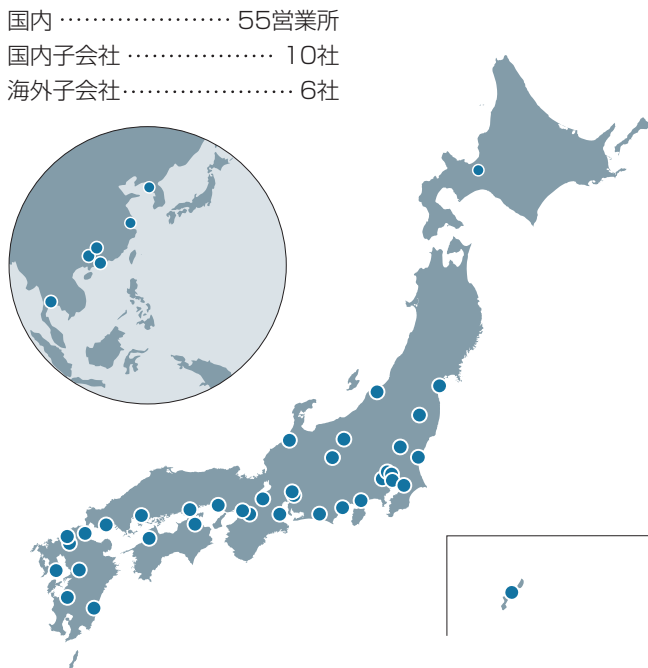
資本金 1,575百万円

従業員 1,437名(連結)

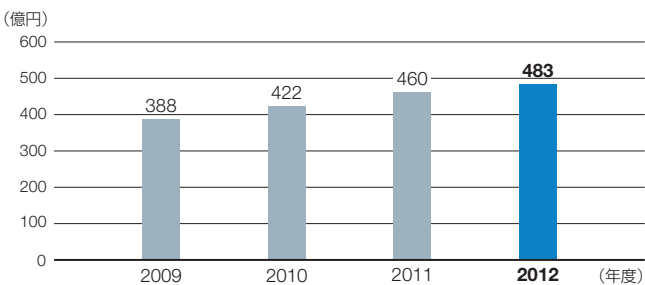
グループ会社 17社(うち連結対象10社)

売上高 48,345百万円(連結)

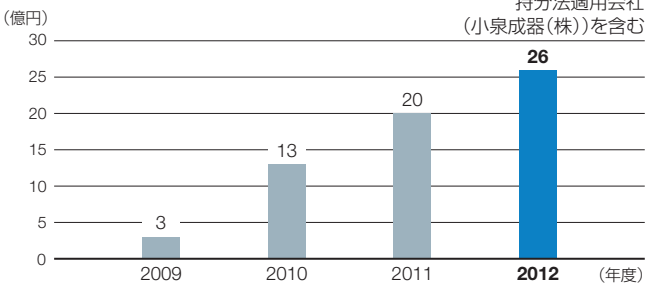
小泉産業株式会社グループの営業所ネットワーク



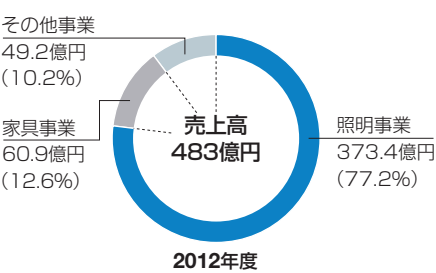
グループ売上高(連結)



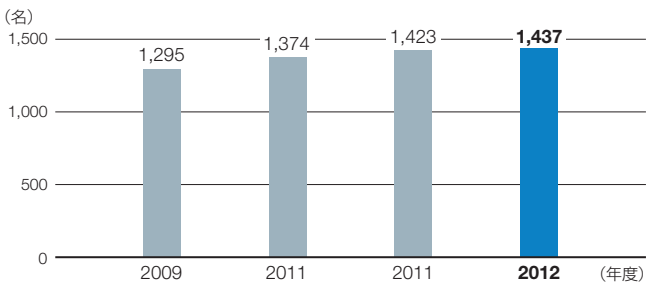
グループ経常利益(連結)



事業別売上高構成(連結)



グループ従業員数



さまざまな空間に、さまざまな製品で、 新しい価値を提供しています

当社グループは、照明事業、家具事業の領域で、住宅や商業施設、オフィスなどの業務施設、公共施設、介護施設などのさまざまな空間に新しい価値を提供しています。

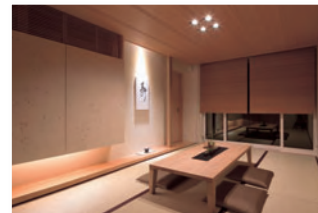


住宅で

毎日の快適な暮らしのために、住空間の照明をトータルにプロデュース。また、子どもたちの学習環境家具や、高齢者の暮らしをサポートする各種家具を提案しています。



家族が集う、笑顔があふれるリビング照明



和みの情緒をつくりだす照明テクニック



ナラ材の木質感をそのままに、落ち着いたシンプルテイストのデスク

フランスのレース草（オルレア草）をデザインモチーフにした、やさしい雰囲気漂うフレンチカントリー調デスク

食事がおいしく、会話はずむダイニング照明



商業施設で

物販、飲食、サービスなどの商業施設を個性あふれる空間にするための最適な照明プランを提案しています。



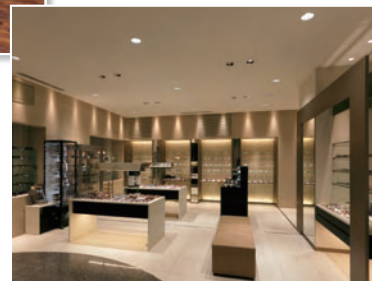
産業観光プラザ すみだ まち処（東京都）



MODE K's 梅田茶屋町（大阪府）



菓子司 又一庵 袋井店（静岡県）



富士メガネ 円山店（北海道）



業務施設で

オフィスやショールームなどの営業施設を快適な空間にする照明プランを提案しています。



メニコン本社ビル（愛知県）

TOTO横浜港北ショールーム（神奈川県）

JA東京 むさし本店（東京都）



介護施設で

高齢者のセカンドライフの充実のために、自立支援家具や施設家具を提供しています。



車椅子の高さにも対応する天板高可変式のダイニングセット



サイズオーダーだからスペースに合わせてジャストインできる収納家具シリーズ

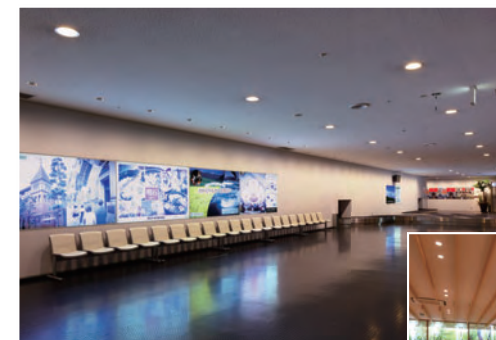


あかりで安らぐ、照明・コンセント・宮付の自立支援ベッド



公共施設で

多くの人々のコミュニケーションの場である公共施設に、多彩な照明プランを提案しています。



神戸空港旅客ターミナルビル LED照明化工事（兵庫県）



新東名高速 遠州森町パーキングエリア（静岡県）



ホリスティックヘルスプラザ かごしま（鹿児島県）

グループ一丸となって 新たな価値を創造し、社会への貢献をめざします



前列

① 小泉産業(株) 代表取締役社長 梅田 照幸
コイズミ照明(株) 代表取締役社長

② コイズミファニテック(株) 代表取締役社長 永安 勝壽

③ コイズミ情報システム(株) 代表取締役社長 権藤 浩二

後列

④ (株)ハローリビング 代表取締役社長 石尾 泰裕

⑤ コイズミ物流(株) 代表取締役社長 西原 久人



「5つの価値」と「4つの責任」を果たすために

小泉産業株式会社グループは、持株会社の小泉産業を核に、主力の照明・家具事業を含む5つの戦略子会社と国内外11の機能子会社からなる企業グループです。その社会的使命は、経営理念にある「新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し、人と社会に夢と感動をつくり出す」ことにほかなりません。それは、暮らしの空間やシーンに応じて最適なあかりを提供する「照明事業」、お子様の成長や高齢者の生活を支援する「家具事業」、また、物流、情報システムなど幅広い事業を展開する企業グループとして、独自の創造力と提案力で新しい価値を提供し、社会に貢献していくことだと言い換えられます。

2006年には、新グループ体制への移行に伴い、私たちが果たすべきCSR（企業の社会的責任）を、「5つの価値（顧客価値、社会価値、人材価値、業務プロセス価値、財務価値）」の創造・向上を図り、「4つの責任（経済的責任、社会的責任、環境的責任、倫理的責任）」を果たしていくことであると明確にしました。

こうしたCSR経営を進めていくベースとなるものは、言うまでもなく、利益を出せる企業体質です。2012年度からスタートした第三次中期経営計画では、「新時代の変化に挑戦する」という方針を掲げ、「人材のプロフェッショナル化」「新しい顧客・商品の創造」「成長に向けた戦略的投資」に的を絞り、アジアにおける照明事業の拡大、また、家具事業においては電動ベッドなどを通じた高齢者の豊かなセカンドライフの提案など、将来の成長に向けた展開を積極的に進めています。



グループ経営が成果を上げ、 2012年度は全社で増収増益に

この第三次中期経営計画の初年度にあたる2012年度は、グループ全社で前期に続き増収増益となり、各社ともに2桁以上の伸び率となりました。海外に製造拠点を持つ照明・家具事業にとっては円高も追い風となりましたが、7年前にスタートしたグループ経営が各社に根付き、利益を出せる体質になってきた証しであると判断しています。

国内では原発問題に端を発したエネルギー問題によって、省エネに関心が高まり、照明業界はLEDによる活況が続きました。しかし、それに伴って家電市場で起きた異業種参入や価格破壊に対し、スピーディーに対応できなかったことは大きな反省点です。マーケティング手法を見直すとともに、昨年度、照明の

小泉産業株式会社グループの理念

社 是

人格の育成向上

グループ経営理念

新しい着眼と独自の発想で
新たな価値を創造し
人と社会に夢と感動をつくり出します

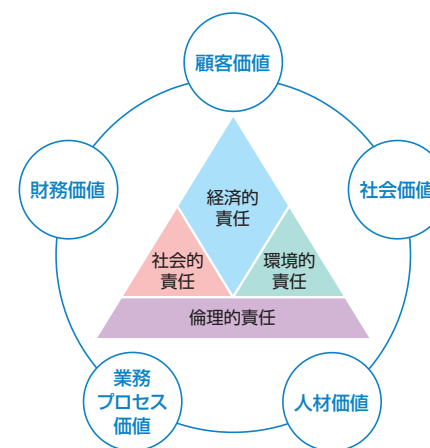
グループ行動理念

- 積極果敢にチャレンジし、目標を必達します
- 自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます
- 互いに学び、人間力を高めます
- 現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します
- 三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります
- 社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します

グループビジョン

私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される“価値創造の専門集団”をめざします

「5つの価値」と「4つの責任」



経営者からのメッセージ

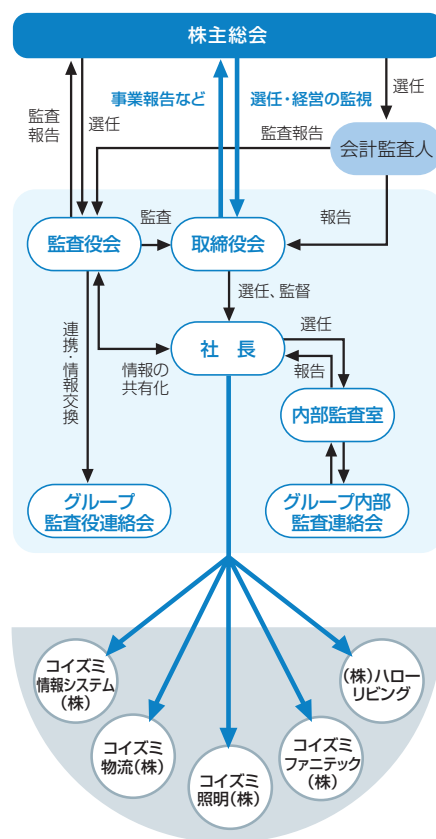
各製造拠点に導入した共通の受発注システムの運用によって、市場動向にスピーディーに対応できる生産体制づくりに力を注いでいきます。グループの基幹製造会社であるコイズミライティングが滋賀県に増築したLEDモジュールの新工場への設備投資も順調に進み、計画以上の生産量を上げ、品質についても大きく改善することができました。

家具事業については、ターゲットをキッズとシニアに絞った成果が如実に現れました。また、物流事業についてもグループ外からの委託業務が順調に増えています。

2013年度においては、変化の方向性が見えてきたことを「進化」と捉え、その進化への挑戦を経営方針に掲げました。照明事業においては、引き続き厳しい電力供給と電気料金の値上げ、さらには消費税導入前の駆け込み需要に対応すべく、人と体制をLEDに集中させていきます。また、家具事業については、円高から円安へという為替の変動を注視しつつ、価格優位性の持てる製造拠点を検討し、スピーディーな展開を図っていきます。



■ グループガバナンス体制図



ブランド戦略においても グループのシナジー効果を強化

各社の事業拡大、グローバル化の進展に伴って、ブランド戦略、CSR活動など、あらゆる面において、グループとしての「シナジー効果」をいかに発揮・強化していくのかも、新中期経営計画の課題と捉えています。

特に海外においては、各国の貿易、法律、関税問題に各社で対応するのではなく、照明も家具もKOIZUMIブランドとして一本化し、グループとして共に対応していく体制づくりが必要な時期を迎えています。そこで、今期は、経営トップが参加する「ブランド委員会」を立ち上げました。今後、グループとして、品質やアフターサービスについてどう責任を果たしていくのか、国内におけるブランドの推進を含めて検討していきます。

各社の現場においては、7年間のグループ経営の成果として、自社のモノ・サービスを提案するだけでなく、「お客様本位」の考えに基づく、各社の顧客の共有化、クロス営業などが進展しています。これらをさらに加速させていくとともに、海外においては販売機能の一本化、国内ではグループ共通の物流機能や業務システムの効率化など、あらゆる角度から、グループとしてのシナジー効果を発揮・強化していける体制づくりをめざして、統括会社である小泉産業がリーダーシップを発揮していきたいと考えています。

グローバル展開の急伸に対応する人材育成をめざして

中期経営計画で掲げた経営戦略のひとつ「グループのグローバル展開」については、海外において照明事業が大きく進展しています。10年前から中国に企画・製造・販売の子会社を設立し、日系企業の中国進出をサポートできる企業をめざしてきましたが、数年前からお客様の進出に伴ってフィリピン、台湾、シンガポールなどアジア全域で事業エリアが急速に拡大。そこで、2012年度は、香港の子会社に、これらアジアにおける代理店の設置と教育などを担う統括機能を持たせました。2013年度は、さらに代理店エリアが広がる予定で、将来的には、家具事業においても海外の販売機能をここに統合していくことを検討しています。

こうしたグローバル展開に対応できる人材の育成は、当社グループにとって今後の大きな課題です。2012年度は、経営層の育成を重要課題として、全役員を対象にした研修の充実を図りました。各社における専門教育と、2年前に本格的にスタートしたコイズミアカデミーにおける経営層や中堅マネージャー教育を連動させ、将来的には語学教育も導入し、グローバルに活躍できる人材の育成を図っていきたくと考えています。



従来のCSR活動の枠を広げ、 さらに幅広い社会貢献をめざして

CSR活動についても、国内に限定するのではなく、その枠を海外にも広げ、社会的問題の解決に貢献できるようなあり方を検討していく時期になってきました。児童養護施設への学習デスクの寄贈など個別の活動を継続するだけでなく、グループとして社会的責任を果たしていくために、ガバナンス機能も含めて統括機能をさらに高めていく必要があると考えています。海外進出においても現地雇用の拡大などを念頭に、本業を通じて、グループとしての社会貢献をめざします。



小泉産業株式会社
代表取締役社長

梅田 忍 幸

グループ各社で、「語る会」を開催

グループのコミュニケーション活動として、2010年度にスタートした「社長と語る会」は、2012年度にその活動の裾野を広げ、グループ各社でも相次いで開催されました。コイズミ照明では「役員と語る会」、コイズミファニテックでは「永安社長と語る会」、小泉産業では「室長と語る会」がそれぞれ開催されました。また、グループとして推進している「梅田社長と語る会」も、福岡と名古屋で開催し、これまでのべ11回、参加総数は113名となりました。



児童養護施設へのデスク寄贈活動

厚生労働省が2012年10月に公表した「社会福祉施設等調査」によると、児童養護施設は全国に578カ所に、保護者や家庭の事情で施設に暮らす子どもたちは2万9,000名以上に上ります。当社はグループの事業特性を活かして昨年、全国の児童養護施設に学習デスクを寄贈する活動をスタートしました。

※次ページに特集を組んでいます。





■ デスク寄贈先

- | | |
|-----------|---------|
| ＜大阪市＞ | ＜河内＞ |
| ① 四恩学園 | ⑨ 花園精舎 |
| ② 田島学園 | ⑩ 武田塾 |
| ③ 聖家族の家 | ⑪ 公德学園 |
| ＜北摂＞ | ＜和泉・堺＞ |
| ④ 遙学園 | ⑫ 泉ヶ丘学院 |
| ⑤ 聖ヨハネ学園 | ⑬ 三ヶ山学園 |
| ⑥ 子供の家 | ⑭ 和泉幼児院 |
| ⑦ レバノンホーム | ⑮ あおぞら |
| ⑧ 健康の里 | ⑯ 岸和田学園 |

特集

「子どもたちに希望の風をおくる」 学習デスク寄贈活動を展開

小泉産業(株)は、当社グループの事業特性を活かした社会貢献として、
2011年度から全国の児童養護施設に学習デスクを贈る活動を始めています。
2012年度は、大阪府下16カ所の施設に学習デスクを届けました。

グループの事業特性を活かした 社会貢献活動として

小泉産業は、2011年度、震災復興支援を目的として、東北3県の児童養護施設に学習デスクを寄贈しました。その後、寄贈先からの情報などにより、こうした施設に対する企業支援の大切さを改めて教わり、この活動を全国の児童養護施設に拡大していくことが、当社グループとしての社会貢献であるとの考えに至りました。

2012年度は、当社の本社所在地である大阪府を対象に実施し、府下16カ所の児童養護施設に50台の学習デスクと椅子のセットを寄贈しました。

従業員の声

笑顔に囲まれた一日でした

デスクの組み立てに参加しました。さまざまな背景を持つ子どもたちが、共同生活の中で遅く育っている姿を見ることができ、非常に感慨深いものがありました。当初は、素直におとなしく協力して組み立て作業をしていましたが、昼食を共にしたあたりから仲も深まり、やはり元気な子どもたちに変身していき安心しました。施設の先生方や子どもたちの笑顔を思い出し、この活動の意義を改めて実感しています。



コイズミファニテック(株)
商品部 商品課
芳野 直樹

ステークホルダーからの声

児童養護施設の将来を見据えた取り組みです

大学進学者も20歳までの措置の延長が認められるようになり、「学力の向上」が児童養護施設の大きな命題になっています。こうした状況のもと、今回の「学習デスク寄贈」活動はタイムリーかつ児童養護施設の将来を見据えた取り組みであると考えています。学習デスクと一緒に組み立てることで、子どもたちのデスクに対する愛着や大切にしようとする気持ちがいっそう芽生え、また、小泉産業のみなさんへの感謝の気持ちが実感できたと思います。今後とも、ご支援をよろしくお願いします。



社会福祉法人 四恩学園
施設長
中西 裕 様

従業員の声

社会への貢献を第一義に考えていきたい

小泉産業の学習デスク寄贈活動に参加し、子どもたちと一緒に机を組み立てる機会に恵まれました。自分たちの机を自分たちで組み立てることに大喜びだった子どもたちの姿が印象的でした。事業活動だけではなく、こうした活動を通じて、社会に貢献していこうとする当社の姿勢を誇りに思います。企業活動の全体が、社会への貢献を第一義に考えるものであり続ける企業グループであってほしいと考えています。



小泉産業(株)
経営推進室 CSR推進グループ
坂口 大介

ステークホルダーからの声

こうした機会に恵まれたことに感謝します

四恩学園に着いてまず目にした光景は、子どもたちと大人と一緒に、机と椅子を組み立てている姿。慣れない作業でも「こんなの簡単」といっすい作り上げる子。興味はあるけど、なかなか「やりたい」と言えずに遠目で見ている子。「この机で一生懸命勉強する!」って宣言する子。笑顔いっぱいの子と子どもたちの時間はあっという間に過ぎてしまいました。一人でも多くの子どもたちの夢がこの机から叶えられるようにと願いながら、改めて子どもたちが穏やかに成長できる健全な社会の必要性を感じました。



NPO法人
キッズ・ドリーム・
パートナーズ
岡田 あきえ 様

コイズミ照明(株)の取り組み ①

中国から世界、日本へと広がる 良品計画様とのパートナーシップ

コイズミ照明(株)は、2000年代半ばから、中国に進出する日系企業様の商業施設における照明空間づくりを本格的に開始し、お客様と良好な関係を築きながら、海外事業を発展させています。そのひとつが、(株)良品計画様の「無印良品」とのパートナーシップ。中国1号店の照明提案から始まったお取引は今やアジア一円に広がり、日本の店舗の照明計画や製品提供に発展しています。

無印良品の理由

無印良品の生産之路は長遠且朴实的。仿佛是在大都市繁忙的十字路口，发现一块谁都没有涉足的空白区域。或许正是因为这种未开发的小空间，才使无印良品的力量得以发挥。我们制作的产品简洁、朴素，但这并不只是单纯简化了的普通产品。起床、刷牙、吃早餐，我们不断观察这些不起眼的日常生活片断，反复积累，推翻再积累着哪怕一点可以吸收的灵感和创意。这样的积累最终就作为一件商品呈现出来。

例如人们很容易拿错的雨伞。多数雨伞的外观都是相同的，为什么很难出现一把“唯一的雨伞”呢？于是我们在伞柄的位置开了一个孔，使大家可以设置属于自己的标识。只是少许的差别，却可以成为一把独一无二的雨伞。

另外，我们根据客户对商品的评价，不断推敲与琢磨，改进细节。在物品中的积累，成就了无印良品的实质。我们一直认真地关注。在这样的持续中，无印良品会向着更优秀无印良品状态进化吧。

MUJI 無印良品



無印良品 佛山INCITY店



店舗・施設照明に強いコイズミらしさを中国でも発揮し、上海1号店から始まったお取引はアジア全域へと拡大

コイズミ照明は、1990年代後半に中国で現地企業と合併企業を作り、商業施設向けの照明器具の製造・販売を手掛けるなど、早くから中国に進出しています。現在は、上海に照明器具の販売拠点、広東省の東莞(トングアン)に照明器具の製造や品質管理を行う2拠点を設置。日本市場向けの製品を製造するほか、中国で事業を展開する日系企業様の商業施設などの照明プラン提案を行い、その事業を照明空間づくりからサポートさせていただいています。

上海の販売拠点である克茲米商貿(上海)有限公司(以下、コイズミ上海)には、照明設計士と営業スタッフの約40名が常駐。お客様のさまざまなご要望に応じて照明プランの提案から納入、アフターメンテナンスまで、一貫してお任せいただける体制を整えています。

衣料・生活雑貨を扱う「無印良品」を展開する(株)良品計画様とのお取引は、2005年7月の上海1号店の出店から。出店の情報を得て照明プランを提案させていただいたところ、商業施設向けの照明器具を現地で製造・販売してきた実績と品質の高さを評価いただき、採用が決定しました。

「中国現地で早くからネットワークを築き、照明プランの提案から現場フォローまで一本の窓口でやってもらえるコイズミさんの安心感とスピーディな対応が、中国展開を加速化していく当社の方針にマッチした」と同社の海外出店のご担当者様。その後、中国における「無印良品」の出店に際しては、すべてコイズミ上海の照明プランを採用いただき、その数は2012年度末まで67店舗に。中国以外のエリアでも、シンガポール、インドネシア、フィリピン、韓国、クウェートなどで照明プランを採用いただくなど、お取引が広がっています。

従業員の声

お客様に信頼され選ばれる
ビジネスパートナーをめざします



克茲米商貿(上海)有限公司
董事副總經理
設計部 部長

阿部 一弘

上海1号店の出店情報を得て、アポイントなしで日本の本社に照明プランをご提案させていただいたのが、良品計画様とのお取引の始まりでした。当社の強みは、店舗・施設の特性に精通した照明プランと自社ブランドの照明器具。その後、中国のすべての店舗、またアジアの店舗でも当社のプラン・器具を採用いただき、大変うれしく思っています。今後も、日本語が話せる現地・中国人を中心とした設計・営業担当が力をあわせ、良品計画様はじめ日系企業様に信頼され、選ばれるビジネスパートナーをめざしていきます。

コイズミ照明のグローバル展開

- 小泉産業(香港)有限公司
照明器具の企画・開発・製造・販売
- 東莞小泉照明有限公司
照明器具の開発設計・組立製造・販売
- 克茲米商貿(上海)有限公司
照明器具の企画・販売他
- 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
家電・照明器具の企画・開発・照明設計、品質管理等のコンサルティングサービス
- 克茲米商貿(上海)有限公司
- 東莞小泉照明有限公司
- 小泉産業(香港)有限公司
- 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司

従業員の声

アジア市場のさらなる深耕の
ためのご協力に努めます



東莞小泉照明有限公司
開発部 経理 (2013年3月現在)

濱田 勉

中国の店舗は空間が広く、MUJIさんの
お店もスケルトン式の高天井が多いので
すが、そこに必要な照度とデザインを併
せ持ったオリジナルのダウンライトやス
ポットライトの開発設計を担当しました。
この実績が認められて、お店で商品とし
て販売される照明器具も受注。中国店舗
でのフロアスタンドをはじめ、日本店舗
でもペンダントをお取り扱いいただいでい
ます。海外における日本の一流企業との
お取引がここまで展開してきたことには
感慨深いものがあります。今後も開発・
設計活動を通じて、アジア市場の深耕に
協力をさせていただきたいと思ひます。



無印良品 重慶龍湖時代天街店

中国で好評だった照明プランを日本の店舗でも採用、 LED化によるローコスト化と省エネを日中で展開

中国店舗での照明設計にあたって、良品計画様から求められたのは、日
本の店舗よりもグレード感のある照明でした。日本では誰もが知る人気ブ
ランド「無印良品」ですが、中国ではこれからブランドを浸透させていく段階
であること、また、主な顧客層がある程度収入のある若い世代であること、
などがその理由でした。そこで、コイズミ上海では、点発光によって空間に
深みや立体感を生みだすCDM(セラミックメタルハライドランプ)を使い、
商品やディスプレイにメリハリをつけながら、店舗として高級感のある照明
プランをご提案しました。

こうした中国店舗における照明手法が好評だったことから、日本の店舗で
も、コイズミ上海のプランをご採用いただくことになり、2010年には、日
本と中国の照明器具の統一規格を策定し、照明のローコスト化を図ること
になりました。

その矢先、2011年3月11日に発生したのが、東日本大震災でした。電
力需給のひっ迫から、国内では一気に省エネ・長寿命のLEDが注目を浴び、
無印良品店舗の日中統一照明規格もLED化へと方針を転換。現在、コイ
ズミ上海の照明プランを採用いただいている日本の店舗では照明のLED
化が完了しています。中国の店舗でも2012年末に新規オープンした店舗
から順次、LED化を図っています。



無印良品 深圳COCOPARK店

ステークホルダーからの声

理に適った提案、機動力・きめ細かさに信頼を置いています

中国で無印良品の独自性を浸透させていくため、商品を際立たせながらも統一感のある
照明や、商品ごとに違う視覚的演出効果について、コイズミさんにはいろいろ要望を出しま
したが、その都度、設計担当の方には理に適った提案をいただきました。一般的な家具・
衣料品の店舗という提案ではなく、無印良品
の店舗をよく理解していただいていることへの
信頼感は大きく、機動力・きめ細かさにも
助けられています。中国以外のエリアの店舗
でもプランは全部コイズミさんをお願いした
いと思っていますので、スピード感ある対応
にさらに磨きをかけていってください。



株式会社良品計画
業務改革部 海外施設設計課長

吉本 佳照 様

従業員の声

ファーストコールカンパニーをめざします

良品計画様は、照明のみならず衣料・食品に
至る広範囲な商品を取り扱われています。製
品への取り組みは当社とは違った目線を持っ
ておられるので管理要求は厳しく、商品化す
るための高いハードルを設けておられます。
中国事情にも精通し、中国特有の問題点も把
握されています。東莞の工場はこうした要求
にお応えすることで、力をつけることがで
きました。今後は良きパートナーとなるべく、
ファーストコールカンパニーをめざし品質向
上を図っていきます。



東莞小泉照明有限公司
品質管理部・製造部 経理 (2013年3月現在)

山口 敬

中国で築いた現地加工工場とのネットワークを活かし、 店舗販売用の商品供給へとパートナーシップが進展

おりしも中国では石炭火力による発電量が経済発展に追いつかず、商業
施設などでは空調温度制限などの節電が求められるようになっていました。
店舗照明のLED化は「消費電力量の削減だけでなく、発熱量が少ない分、
空調負荷削減にもつながる」という良品計画様の考えとも合致。2013年中
に中国で30店舗、日本でもハイピッチで出店が計画されている無印良品の
店舗イメージにあわせ、コイズミ上海では2013年中に面発光タイプの新た
な角型LED器具を開発し、東莞工場で生産して納入する予定です。

さらに、良品計画様とのパートナーシップは、店舗で販売する商品の供給
にも発展しています。中国で築いたガラスや布、木材などさまざまな素材の
加工工場とのネットワークを活かして開発・生産した各種照明器具が、
2010年から中国の無印良品で販売されています。さらに、2011年には日
本向け商品としてLEDペンダントなどの供給も開始。2012年からは台湾や
韓国向けの商品企画も併行して進行しています。

コイズミ照明は、良品計画様をはじめ、中国で築いたお客様とのパートナ
ーシップをアジア全域に拡大させるべく、2012年に香港の子会社をアジアへ
の商品供給の統括機能を持つ組織に改編しました。子会社の機能を最大限
に活かしながら、今後さらにお客様のビジネスに貢献できる照明メーカーを
めざし続けます。

従業員の声

無印良品ブランドを支えている
ことに誇りを感じています



コイズミ照明(株)
住宅商品部 商品企画室

飯沼 豊

無印良品ブランドの商品を担当すること
ができ、大変やりがいを感じています。
あわせて、当社のノウハウがブランドの
一端を支えていることに誇りを感じてい
ます。良品計画様は品質からカタログ
づくりまで、すべてにおいて顧客指向が
徹底されており、数々の気づきをさせて
いただきました。今後も照明の専門メー
カーとして「感じの良いくらしをリーズ
ナブルに」実現できる商品づくりに協力さ
せていただきたいと思います。

無印良品カタログ 2013春夏版

LEDペンダントやシーリングライトも
掲載されています。



「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」を一旦終了 四半世紀の歴史を、新たな形で継続・発展へ

コイズミ照明(株)は、「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」を1987年から開催し、世界中の学生とともに「あかり」の未来を探求し続けてきました。各方面から高い評価をいただいていたコンペですが、四半世紀の節目を機に一旦終了し、今後また新たな形によるクリエイターの育成支援を模索していきます。



「あかり」の文化を同時代を生きる人たちとともに探求し、そのデザインのあり方を示すきっかけを与えたコンペ

ものごとの来し方を明らかにし、行く末に想いを巡らす——好奇心と創造力が促すこの人間特有の営みが世代を超えて受け継がれていく中で、文化が生まれ、育まれていきます。「あかりのありか」を求める照明文化研究宣言に合わせてスタートした「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」は、まさに「あかり」という文化を、同時代を生きる人たちとともに探究する活動でした。25年間の長期にわたって開催され、42カ国から33,000名にも上る学生が参加したこのコンペの社会的な意義を振り返ってみます。

まず一つ目は、照明、デザイン、建築の分野の学生たちにチャレンジの場と、デザイナーとしての実力を磨く機会を提供したこと。二つ目は、学生たちが社会とつながる機会を提供したこと。「ライティング・エコロジー」を根幹のテーマに据えたこのコンペは早くからエコロジー社会の牽引役となり、メディアの耳目を集めることとなりました。そして三つ目は、照明に対する世の中の関心を高めたことではないでしょうか。コンペがスタートした当初、日本の照明はまだインテリアとして未熟な状況でした。この状況を変えていくために、思考の柔軟な若い時に照明を体験してもらいたいという想いで取り組んだ長期計画がこのコンペでしたが、その結果、若い世代の多くが照明の楽しさや奥深さに目覚め、自分流に使いこなす時代となりました。

また、あかりと人、人と人をつなぎ、デザインの進め方に新しい風を吹き込んだ点にも、このコンペの意義があったと言えるのではないのでしょうか。「今でこそデザイナーは、完成したデザインを提供するだけでなく、社会課題の発見やその対策をユーザーと協力しながらやっていく時代であるが、このコンペはその先駆けであったように感じる」。これは長年にわたってこのコンペを見守っていただいた建築・インテリア雑誌の企画担当者の談話です。

コンペはひとまず終了しましたが、今後は照明も含めた空間全体の創造に携わる若手人材を支援する活動として、新たな出発を模索していきたいと思っています。



ステークホルダーからの声

新しいことを求めることは、企業にとって必要不可欠な事業です



コイズミ国際学生照明デザインコンペ 審査員長
GKデザイングループ 会長

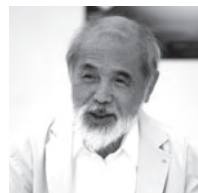
栄久庵 憲司 先生

“雀百まで踊り忘れず”という諺があるように、若い頃から創造心を磨くことは大切なことであり、「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」はまさにその真髄とも言えるものでした。新しいことを求めることは人生の未来を求めること、すなわち企業の未来につながり、企業が新しい時代を迎えるために必要不可欠な事業です。古きに固執しては、企業は必ず滅びます。

コンペを30年近く継続してきたことは素晴らしいことであり、このコンペが他企業に与えた影響には限りがありません。コンペを支えてきた審査員の方々の教養の高さ、そして、コイズミ照明の方々が取り組んでこられたコンペ開催のための環境整備は見事でした。

地球の持続可能性と共存する「未来のあかり」 そのあり方を世界中の学生に問い続けた25年

歴代審査員のみなさん



栄久庵 憲司
第1回～第25回
インダストリアルデザイナー



菊竹 清訓
第1回～第24回
建築家



栗津 潔
第1回～第15回
グラフィックデザイナー



葉 祥栄
第4回～第25回
建築家・デザイナー



**アンジェロ・
コルテージ**
第5回～第25回
インダストリアルデザイナー



**パトリック・
ホイットニー**
第17回～第25回
デザイナー

コイズミ国際学生照明デザインコンペのあゆみ

1988 第1回

テーマ「あかり」の造形
(自由な発想と表現であかりの
可能性を広げる作品を募集)

1989 第2回

テーマ「あかり」の造形
(自由な発想と表現であかりの
可能性を広げる作品を募集)



第1回 金賞作品「BOSOM(椀)」

1990 第3回

テーマ「あかり」の造形
(自由な発想と表現であかりの
可能性を広げる作品を募集)

1991 第4回

テーマ「光の希求」

1992 第5回

テーマ「Lighting Ecology」



第5回 金賞作品
「LIGHTMAN
A SMALL STRIDE
FOR A BIG RUN」

1993 第6回

テーマ「New Light Quality」
—エコロジーのための新しい
光の質

1994 第7回

テーマ「Lighting Ecology」
—自然と人工、住まいのあり様

1995 第8回

テーマ「Lighting Ecology」
—進化と人間らしさ



第6回 金賞作品「ATMOS」

1996 第9回

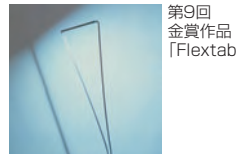
テーマ「Lighting Ecology」
—用のひかり(あかり)Working
Light

1997 第10回

第9回までのテーマから自由
選択

1998 第11回

テーマ「Lighting Ecology」
—ひかり、そのありかを求めて



第9回 金賞作品
「Flextable」

1999 第12回

テーマ「Lighting Ecology」
—心なごもあかり、個の幸せ
からパブリックまで

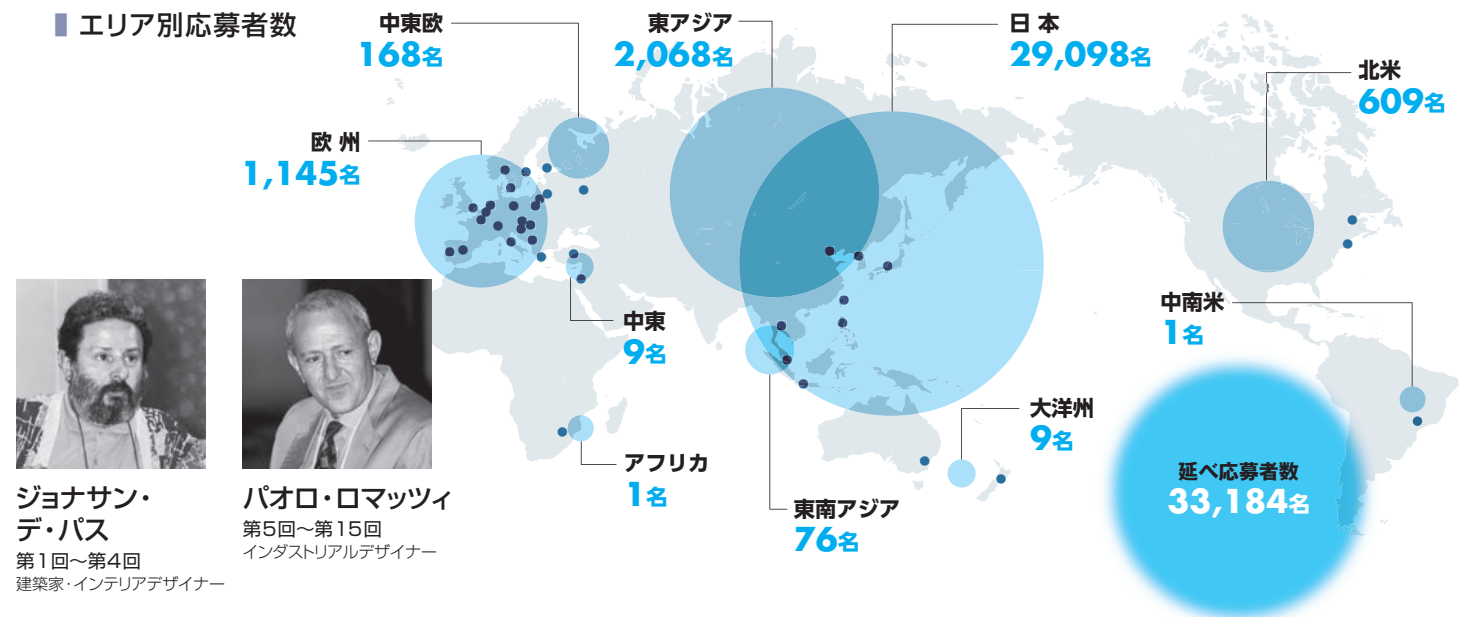
2000 第13回

テーマ「Lighting Ecology」
—四次元の光 新しい次元を
感じさせてくれるもの



第13回 金賞作品
「light in the wall」

エリア別応募者数



**ジョナサン・
デ・パス**
第1回～第4回
建築家・インテリアデザイナー



パオロ・ロマッツィ
第5回～第15回
インダストリアルデザイナー

2001 第14回

テーマ「Lighting Ecology」
—ライティング・ライフライン
いのちをつなぐあかり

2002 第15回

テーマ「Lighting Ecology」
—21世紀の光と住環境

2003 第16回

小泉産業60周年記念として
過去の実績作品を製品化



第14回 金賞作品
「ensembleprocess」

2004 第17回

テーマ「地球環境」
—持続可能性のあかり

2005 第18回

テーマ「地球時代のあかり」

2006 第19回

テーマ「災害時のあかり／
救助のあかり」



第17回 金賞作品「LoopLight」

2007 第20回

テーマ「あかりのありかを求め
て…これからの地球環境」

2008 第21回

テーマ「あかりのありかを求め
て…最小限の素材で最大限
のあかりを」



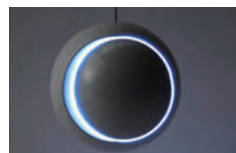
第21回 金賞作品
「ひかりのあかりとそのあかり」

2009 第22回

テーマ「あかりのありかを求め
て…地球を大事にするあかり」

2010 第23回

テーマ「あかりのありかを求め
て…地球を大事にするあかり
—光と陰影が生み出す新時代
のフォルム」



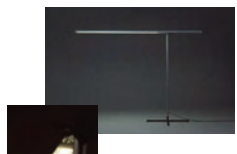
第23回 金賞作品「日食」

2011 第24回

テーマ「あかりのありかを求め
て…テクノロジーをいかす心
のあかり」

2012 第25回

テーマ「あかりのありかを求め
て…光のかたち—多様化す
るテクノロジーを包む豊かな
あかり」



第25回 金賞作品
「Crane」

ステークホルダーからの声

毎年異なるテーマが、学生たちの創造性を刺激しました

ヨーロッパだけでも多国にわたり、毎年、コンペへの応募が多数
ありました。コンペのテーマを授業の課題として導入し、多くの
学生さんが参加してくださった学校もありました。照明のデザイン
やテクノロジーはもち
ろんのこと、地球の環境
や私たちの暮らしそのも
のに重点を置いた、毎年
異なるコンペのテーマ
が、未来のデザイン界を
国際的に担っていく若い
方たちの創造性への刺
激と一致していた点もこ
のコンペの魅力の一つ
だったと思います。



コイズミ国際学生照明デザインコンペ
イタリア事務局

栗原 和美 様

ステークホルダーからの声

学生に照明の使い手の視点を与えた意義を評価します

17年間、建築・インテリア誌の企画担当としてコンペを見てき
ましたが、毎年、時代の要請に応じたサブテーマを設定し、学生に使
い手の視点で照明を考える機会を与えた意義は大きかったと思
います。例えば、ペットボ
トルのキャップにLEDを組
み込んだ作品は、震災の
被災者の視点で光の大
切さを訴えていたことに
鮮烈な印象を受けまし
た。コンペの意義が社会
に根付き、若手人材が協
業して人々の暮らし方を
考える機会が増えてい
くことを望みます。



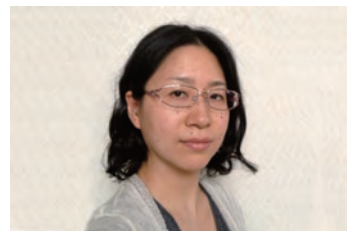
株式会社建築資料研究社 出版部
アカウントプランニングチーム
「コンフォルト」ディレクター

宮川 直行 様

ステークホルダーからの声

高校生が世界と戦える貴重な場でした

このコンペには学生の頃に参加し、第20回からは母校の指導者として参加する生徒を応援してきました。美術を学ぶ高校生が世界の
学生と同じ土俵で表現し戦える貴重な場でしたので、終了は非常に
残念です。身近な「あ
かり」がテーマだったため、
生徒たちはコンペ参加を
通じ、誰かが創ったあ
かりのお陰で生活でき
ることを再発見し、自分
たちも創作者となろう
としているという認識が
持てたようです。ぜひ
また形を変えて開催し
ていただきたいと思います。



長崎日本大学高等学校
デザイン美術科
非常勤講師

増山 鈴子 様

ステークホルダーからの声

受賞作品は今も名刺代わりです

当時、専門学校1年生であった私は国際コンペに心躍り、第一線の
審査委員の先生方(栄久庵憲司、菊竹清訓、栗津潔、ジョナサン・
デ・パス 敬称略)のもと腕を試したく応募しました。好きだった照
明の初めてのコンペ
応募で金賞をいただき、デ
ザイナーを志す者として
得たものは多く、今でも
大きく影響しています。
コイズミ国際学生照明
デザインコンペの認知
度は高く、受賞作品は
現在も斬新だと評価され
名刺代わりにもなって
います。



mezzo design
デザイナー／アーティスト

ソメヤ ケンジ 様
(第1回金賞受賞者)



コイズミファニテック(株)の取り組み ①

品質と安全性を確保しながら、 長く愛されるモノづくりを追求

コイズミファニテック(株)は、学習家具のブランドメーカーとして、お子様の健やかな成長と未来のため、学習環境と地球環境に配慮したモノづくりに取り組んでいます。安全性や機能性の重視はもちろん、長く安心して使っていただけるロングライフ設計を基本に、あらゆる角度でコイズミならではの「独自性がある、愛される製品」を真摯に追求し続けています。

すべてのデスクにLEDライト「エコレディ」を搭載



ON/OFFはもちろん、電球色と昼白色のミックスもボタンを押すだけで簡単にセット



電球色光源のみ
「休憩モード」



電球色+昼白色
「勉強モード」



昼白色光源のみ
「計算モード」



カタチだけでなく、機能性、省エネ性など、あらゆる角度で コイズミらしい「付加価値」をお客様に提供するために

学習環境と地球環境に配慮した製品づくりの一例として、学習デスクに搭載しているのがLEDを採用した「エコレディ」です。光の色の心理的効果を科学的に検証し、省エネ性に優れているだけでなく、使用状況に応じて光の色をコントロールできるライトで、2012年の新製品において全機種に搭載。長寿命のLEDライトは、小学校入学から大学卒業まで交換していただく必要がありません。

機能性の面では、引き出しを全開にできる「フルオープン」機能を上部の引き出しにも採用し、ほぼ全機種に展開しました。従来からお客様から要望が多かった機能で、コストなどの検討を重ね、業界で初めて実現することができました。また、成長にあわせてデスクと本棚を組み替えられるステップアップデスクを、本棚を脇に組み合わせたユニットタイプにも拡大したことで、さらにフレキシブルな使い方が可能になりました。

2012年度は、温かみのある自然な風合いが特長の北米産アルダー材を初めて本格的に採用した、新シリーズ「レイクウッド」を発売しました。LEDライト、フルオープン引き出しに加え、4種類の取手カラーが選べるプレートなど、機能性やデザインでも独自性を追求。約5,000台を販売するヒット商品となりました。

こうした製品づくりは、「健康第一」「安心・安全」「優れた省エネ性能」を核とする品質方針に沿って進めていますが、お客様の声に応えることも当社の使命です。お客様相談室やショールームに寄せられるご意見・ご要望だけでなく、実際に使用されているお客様宅を訪問するなどして積極的にお客様の声を収集し、製品づくりに反映させるべく、日々、努力を重ねています。

すべてのデスクを 「フルオープン引き出し」に



デスク本体、ワゴン引き出しは全段3段引きのスライドレールでフルオープンできます

従業員の声

独自性があり、長く愛される
商品の開発をめざしています



コイズミファニテック(株)
商品部 開発課 課長

北川 康文

当社に期待されていることは、お客様の安心・安全と健やかな成長を支えることを前提に、コイズミらしい独自性のある商品開発ではないかと思っています。販売店様やユーザーのご要望を何とか実現したいという想いで常に考え続け、お客様に長く愛される商品を今後も提供していきたいと考えています。

ROOM COORDINATE SERIES

LakeWood

レイクウッド

北米産アルダー材の質感と
シンプルなスクエアのデザインで、
自然な風合いが魅力です



取手は4色のカラープレートから
好きな色をお楽しみください

COLOR
PLATE



従業員の声

キャラクターの魅力を
最大限に表現しました



コイズミファニテック(株)
商品部 商品課

林 賀奈子

デスクマット、デスクカーペットの商品開発を担当しています。デスク購入の際、これらの商品はお子様にとって自分に選択権がある大切なものです。売場でキャラクターのデスクマットに惹き付けられているお子様を見るとキャラクターの持つ力の大きさを感じます。キャラクターが一番魅力的に見えるデザインを心掛けて、お子様がキャラクターと一緒にデスクに向かって楽しく勉強している姿を想像しながら開発に取り組んでいます。

毎月の「商品会議」で各部門が開発課題を共有し、 市場ニーズに応える製品をスピーディーに実現

安全性・機能性の重視を前提に、「付加価値のある、愛される製品づくり」を全社一丸となって進め、スピーディーに市場に展開していくため、3年前から毎月、「商品会議」を開催しています。開発部門のほか、購買・調達、品質保証、営業、経営企画など、各部門の責任者と社長が参加。開発の進捗や課題を報告するとともに、各部門からの意見を集約し、製品開発に反映させています。各部門が一堂に会することで課題を明確にしながらか開発が進められ、市場のニーズやトレンドといった営業部門からの情報もいち早く共有できるため、開発期間の短縮化や企画不良の削減など、さまざまな成果が上がっています。

近年は、小学校入学時はリビングを学習スペースとし、学年が進んでから学習デスクを購入されるご家庭もあるなど、お客様の志向は多様化しています。2012年に発売した「ロニィ」シリーズは、そんな志向の変化を意識した学習デスクです。小学校高学年の女子に人気のファッションブランド「ロニィ」とコラボレーションし、企画から約7カ月で、市場の期待に応える製品をスピーディーに発売することができました。

また、2012年秋には、製品の機能や使いやすさ、デザイン、お客様先での組立時間などを、開発中の試作品を使って検討する「開発センター」を増設。広さは従来の約2.5倍となり、開発環境がさらに充実しました。

コイズミファニテック 開発センター& 検査センター

増設した「開発センター」(写真下)は窓がないため、外光の影響を受けずに、素材や製品の色を検討することが可能です。また「検査センター」(上)では、試作品の強度試験や寒暖変化・加湿などの環境試験を繰り返し実施し、さまざまな環境下での長期使用の安全を確保しています。



独自基準に基づく、品質や安全性を徹底して確保。 さらなるレベルアップをめざして、基準の見直しへ

開発段階の製品アセスメントでは、耐久性・デザイン性・機能性の面から永く安心して使っていただける「ロングライフ」のほか、「安心・安全」「省エネ」「法規制の遵守」の各項目がクリアできているかどうかをチェックし、全てをクリアした製品を当社の「環境配慮型商品」と定義としています。例えば、「安心・安全」については、部品や材料の化学物質含有調査を実施し、欧州の化学物質規制「RoHS指令」の指定物質やトルエン、キシレンなどの揮発性有機化合物の不使用を確認しています。2012年度からは、海外工場の品質指導をさらに強化するため、主要生産国の中国に品質管理責任者を常駐させています。

また、製品の品質と安全性を確保するため、JIS規格をベースにした独自の製品規格「KIS(Koizumi Industrial Standard)」を設け、項目によってはJIS規格以上に厳しい安全性試験を実施しています。強度試験のほか、日本各地のさまざまな気候条件のもとで長く使っていただけるよう、耐暑性・耐寒性・耐湿性などの経年変化を評価する環境試験も実施しています。

こうした製品アセスメントや安全性試験のレベルアップを図るため、現在、それぞれの評価基準や評価方法の見直しを進めています。「永く飽きのこないデザイン」を客観的に評価する基準やデスクライトの省エネ目標値の設定などを検討中で、2013年度中にいずれも全面的な見直しの完了をめざしています。

従業員の声

“源流管理”を意識した
品質管理にチャレンジ



コイズミファニテック(株)
品質保証課 品質管理室 室長

上本 正人

どんなに優れたデザイン、機能を持った製品であっても品質が伴ってこそものです。品質管理室では、ブランドメーカーとしてお客様に信頼していただける品質をめざし日々努力しています。2012年度より、出荷検査や受入検査による「不良品の流出防止」だけでなく、工程内で「不良品を造らない」ための活動にも取り組んでおり、“源流管理”を意識した品質管理手法にチャレンジしています。

ステークホルダーからの声

新製品を開発し続ける
「攻めの姿勢」を信頼しています



及權實業股份有限公司
總經理

潘 冬春 様

コイズミファニテックさんとは、20年前から製造パートナーとしてお付き合いさせていただいています。日本国内で学習家具のNo.1メーカーであり、製品に対する思い入れと常に新しい製品を開発し続けていく攻めの姿勢に信頼を寄せています。お客様ニーズに対応した製品構成(アイテム数)と品質で、毎年進化を続け、近年の厳しい市況の中でも販売数を維持できている販売力がコイズミファニテックさんの強みだと思います。

ステークホルダーからの声

いいものだけに、お客様にお勧めしやすいです

コイズミファニテックさんは、お子様の勉強する環境をよくするために機能だけでなく、素材やつくり、お子様が喜ぶカラーやデザインを追求するなど、学習デスクに対する考え方がすばらしく、お客様に「いいものをお勧めする」という当社の戦略どおりの商品を提供していただいています。あらゆるお子様のニーズに応えられる、さまざまな機種をもつメーカーは他にはなく、コイズミファニテックさんの商品力と品質には絶対の信頼を置いています。今後もこれまでの固定概念にとらわれない、新しいモノをどこよりも早く開発してくれると期待しています。



株式会社島忠
家具商品部 マーチャンダイザー

谷口 大介 様



高齢者の充実したセカンドライフのために 利用者の目線で多彩な商品を開発

コイズミファニテック(株)は、急速に進む高齢化に対応するため、シニア世代の快適で豊かな暮らしを提案する「ウェルホーム&メディカル(WHM)事業」を展開。家具販売店で電動ベッドなどのシニア向け家具を提供しているほか、介護ベッドや施設収納家具などは介護施設や介護用品販売商社にも販路が広がっています。



元気な方から介護が必要な方まで、シニア世代のニーズに応える商品を、品質と機能にこだわって開発

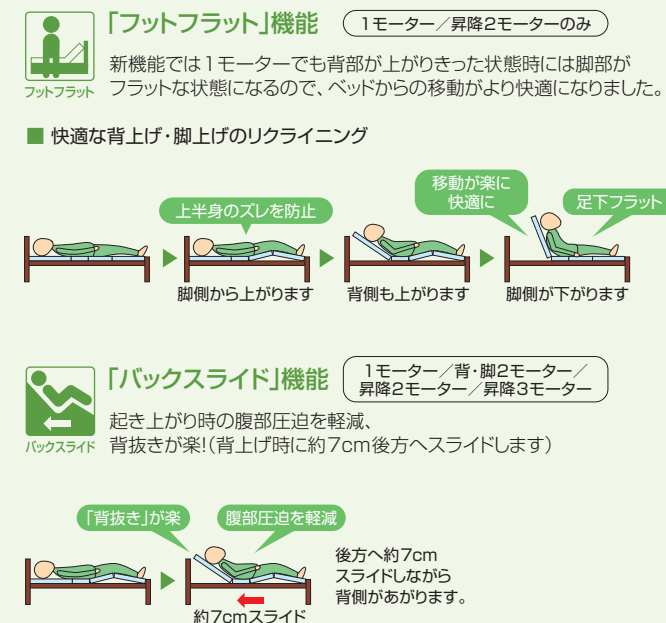
総務省の推計では、2015年には65歳以上の人口が4人に1人以上になるなど、社会の高齢化が急速に進んでいます。コイズミファニテックでは、増え続けるシニア世代の快適な暮らしをサポートしていくことも大切な役割であると考え、高齢者の充実したセカンドライフを提案する「ウェルホーム&メディカル(WHM)事業」にも注力し、製品ラインナップを拡充させています。

主力商品のひとつが、2005年に自社ブランド製品として開発した「自立支援ベッド」ですが、ひとくちに高齢者といっても、元気な方から介護が必要な方まで、健康状態や身体機能によって電動ベッドに求めるニーズはさまざま。そこで、2012年には、インテリア性を高めた元気な方向けの「リクライニングベッド」と、介護が必要な方向けに上下昇降機能を持たせた「在宅ケアベッド」を発売し、家具店や福祉・介護機器の販売店などを通じ販売しています。

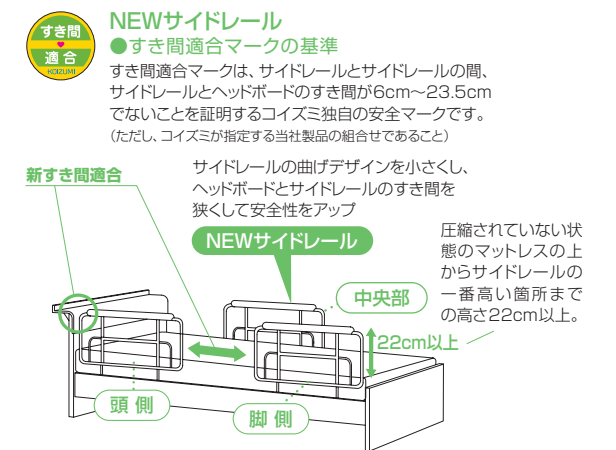
こうした当社の電動ベッドは、学習家具同様、自社製品規格「KIS規格」に基づいた安全性試験を繰り返すとともに、本体とサイドレールのすき間に指などを挟み込まないよう自主基準を設けて製品にも表示するなど、安全性の確保を徹底。品質への自信の証となる「3年間保証」を付けています。

また、背部が上がってきた時に脚部が1モーターでフラットになる「フットフラット」機能や、起き上がり時に腹部の圧迫を軽減する「バックスライド」機能など、寝起きしやすいさまざまな先進機能「らくアップモーション」®など充実の機能を備えています。

電動ベッド 先進の機能「らくアップモーション」®



電動ベッドの安心・安全性について



安心 安心の「3年間保証」

日本福祉用具・生活支援用具協会 (JASPA) 会員

●(社)日本家具産業振興会
SAFU制度は、家具の欠陥により事故が発生し、法律上の賠償責任が生じた場合に賠償するというものであり、本制度に加入している企業は「SAFUマーク」(SAFU=Safety Furnitureの略)を表示しています。

従業員の声

固定観念にとらわれない
新しい風を吹き込みます



コイズミファニテック(株)
WHM事業部 商品課

井上 善夫

ウェルホーム&メディカル事業部では、電動ベッド、施設用家具、高齢者向けパーソナルチェア(楽座)の開発ならびに、アクティブシニアコレクションとして、ステッキ、車椅子などを取り扱っています。製品開発を行ううえで3つの目線を大切にしています。3つの目線とは、製品に精通したプロの目線、実際に使う利用者様の目線、そして、初めて製品を目の当りにする素人の目線です。今後も固定観念にとらわれず、お客様にやさしい製品の開発に取り組んでいきます。

従業員の声

お客様とのやりとりが
新しいアイデアにつながります



コイズミファニテック(株)
WHM事業部 営業課

村主 泰治

施設の状況に合わせて、フレキシブルな組み合わせができるイーजीオーダー家具「グランテージ」シリーズは大変好評をいただいています。納入、設置の場でのお客様とのやりとりの中で、新たな要望が見えてくるが多々あります。こうしたお客様からの貴重なご意見を取り入れていき、社内共有することで、高齢者の方がより快適で健やかに暮らせる家具づくりにつなげていきたいと考えています。



とーますハウス

大阪府東大阪市で、鍼灸・整骨院を開業する林田整骨院(株)様が、2012年11月に設立した住宅型有料老人ホーム。全室個室で、家庭と変わらないアットホームな環境を提供されています。隣接するデイサービス施設も地域の方々に親しまれています。

入居施設の利用者や介護現場の視点からのご意見など、現場の目線を製品コンセプトに反映

電動ベッドのほか、高齢者の「座る」「立つ」「くつろぐ」をサポートする電動リクライニングチェアなどもラインナップを拡充しています。最近は、ご自宅で利用するためにこうしたシニア向け家具をお求めになる方だけでなく、高齢者住宅などへの入居を機会に購入を検討される方も増えてきています。

病院や通所型介護施設とは異なり、入居施設は、文字通り、高齢者の住まいとなる場所です。「居室レイアウトや使い勝手にあった家具を選択したい」というニーズにお応えする商品として、当社が提供しているのがイーजीオーダー家具「グランテージ」シリーズです。居室スペースなどに応じて、自由に組み合わせが選べる収納家具やデスクを揃え、収納家具は幅1cm単位でオーダーメイドも可能です。電動ベッドについては、介護保険制度を利用してレンタルをご希望される方向けに、シンプルな介護機能に特化したレンタルベッドも提供しています。

また、施設内の共有スペースである食堂や休憩場所の家具には、入居者の介護機能も必要とされます。当社では、車椅子のままでも食事が摂りやすいダイニングテーブルや、立ち上がりを楽にするグリップ付き肘掛椅子など、介護機能を考慮した家具を開発し、利用者の安全で快適な生活をサポートしています。

こうした生活サポート家具は、利用者の視点からのご意見が製品開発の大きな要素になってきます。食堂のテーブルや椅子に当社の製品を採用いただいた住宅型有料老人ホームからは、居室に置いても違和感がなく、軽いケア作業もできる機能付き家具や伸縮自在のリクライニングソファなど、介護現場ならではのご提案をいただきました。こうした現場からの貴重な声は、今後の商品開発の参考にさせていただきたいと考えています。



ステークホルダーからの声

介護現場のことをよく考えたきめ細やかな配慮を感じます。
品質とリーズナブルな価格が、入居者にも喜ばれています

住宅型有料老人ホームの食堂にコイズミさんのテーブルや椅子を採用させていただきました。テーブルは介護現場用に非常によく考えられており、きめ細やかな配慮が感じられます。また、コイズミさんの電動ベッドや家具は、高品質でリーズナブルなため、入居者から相談を受けた際に、安心してお勧めでき、介護保険でカバーできないところを補ってくれる商品として入居者も施設も大変助かっています。これからも介護現場の声を反映した商品づくりに期待しています。



林田整骨院株式会社
代表取締役 主任ケアマネージャー

林田 好雄 様



品質・機能・価格・アフターフォローが評価され、介護用品の販路を通じての商品提供が拡大

「電動ケアベッド」をはじめとするシニア向け家具や生活サポート家具は、従来は、主に家具店を通じて販売していましたが、現在、居宅介護支援事業所、介護・福祉施設、また、介護用品の卸業者のお客様などにも販売ルートが広がり、当社がこだわっている安心・安全の品質・機能やリーズナブルな価格、アフターフォローの信頼性に高い評価をいただいています。自社ブランド製品だけでなく、ベンダーとして最新で便利な製品を提供するため、2005年からは、介護事業者を対象に介護用品カタログ「げんきの泉」を制作し、お客様の開拓を積極的に進めています。

当社製品の品質は各方面から高い評価をいただいておりますが、大阪市にある介護用品の老舗商社でもさまざまな製品をお取り扱いいただき、2012年には各地の病院・介護施設で、当社の「電動ケアベッド」や介護用収納家具をご購入いただきました。

今後ますます高齢化が進む中で、在宅・施設を問わず、高齢者の快適で豊かな生活を支える家具や介護用品の需要はますます高まっていくと考えられます。政府の発表した「成長戦略」においても、高齢者支援が掲げられており、高齢者向けの住宅の整備が急ピッチで進められています。こうした社会情勢の中、コイズミファニテックでは、家具事業で培ってきた専門性を発揮し、福祉・介護の現場や介護用品を販売される各方面のお客様と積極的に情報交換し、市場ニーズに合った商品を開発・提供していきます。

ステークホルダーからの声

品質・価格・アフターサービス面で安心してお勧めできる商品です

当社では、全国のお客様に自社の企画商品をはじめ、さまざまな福祉機器や介護用品をご提供しています。コイズミさんの商品は、品質面・価格面・アフターサービスの面でも、お客様に大変喜ばれています。特に3年間保証は、お客様に大きなメリットがあり、当社としても安心してお勧めできる商材となっています。これからシニアになる方々は、ファッションにもこだわりのある世代ですので、市場の変化にマッチした商品企画を期待しています。



株式会社フォーライフメディカル
代表取締役

益田 昌彦 様

従業員の声

アジアと日本をつなぐ
架け橋をめざします



コイズミファニテック(株)
WHM事業部 営業課

榎 秀辰

日々営業活動に携わりながら日本のビジネスの進め方について勉強しています。また今年は上海と北京の展示会出展にも参画し、中国での国内販売の研究もしました。中国系日本人として、今後拡大するアジア市場で活躍できることをめざしています。

株式会社フォーライフメディカル

大阪市都島区の(株)フォーライフメディカル様は、在宅介護向けを中心にした福祉機器・介護用品を、全国のディーラーや介護ショップに供給する総合商社です。介護用品・機器を使う人の立場に立って、ベストな選択ができるカタログを自社制作されています。



グループシナジーを活かし、オフィスや店舗の省エネを提案

(株)ハローリビングは、住宅設備の提案・販売・施工事業を全国で展開しています。2012年度には、グループ企業との協働により、オフィスや店舗に対する省エネの提案事業を本格的に開始しました。

提案から施工まで一貫できる体制で 業務分野でも積極的に節電・省エネを提案

ハローリビングは、照明器具をはじめ、インテリア製品、床・壁材などの内装材まで、多種多様な住宅設備機器の販売・施工を通じて、生活者の皆様に快適な空間をトータルに提案しています。

省エネ性の高いLED照明の提案・施工のノウハウを活かし、2011年度に始めたのが、オフィスや店舗などのお客様に節電・省エネを提案する「ESCO (Energy Service Company) 事業」です。LED照明の開発を進めるコイズミ照明と協働し、2012年度は本格的に事業を展開しました。

当社の取引先であるマンション会社様をはじめ、グループ各社の取引先へのLED照明の導入提案を中心に、携帯電話販売店や飲食店などへの新規導入、銀行のフロアやマンション共用部の改修に伴う入替工事などを行いました。導入にあたっては、コイズミ照明が、LED導入による節電・コストメリットをプラン提案したうえで決定され、当社が施工を行っています。

今後は空調メーカー様とも連携し、幅広い省エネ改修の提案を進めていきます。

従業員の声

グループ連携の力をフルに発揮していきます

オフィスや店舗などの節電・省エネへの関心は高く、LED照明の価格低下もあって、入替のご相談をいただくことも多くなってきました。このチャンスを活かすべく、コイズミ照明とは製品開発にあわせて合同会議を開くなど、従来以上にグループ連携を密に図っています。今後はコイズミファニテックの自立支援ベッドの提案先である福祉施設などに対しても協働で省エネ提案を進めるなど、さらにグループシナジーを発揮していきたいと思っています。



(株)ハローリビング
西日本営業部 部長
塩谷 裕之



ステークホルダーからの声

さらなる連携強化を図り、 お客様の満足度向上をめざします



コイズミイテック株式会社
取締役社長

菅村 浩 様

新たに環境事業を立ち上げた2年前に、コイズミ照明さんの製品の取り扱いをはじめ、事業拡大に伴って、昨年からLED照明の施工について、ハローリビングさんとの連携がスタートしました。2012年に、地元神戸の銀行オフィスのLED化工事を依頼し、お客様から高い施工評価をいただきました。ハローリビングさんは、コイズミ照明さんとの連携もよく全国のお客様への対応が可能で、施工実績も豊富なので、安心してお任せできます。「省エネ」や「節電」というお客様の要望が増加する中で、LED照明の導入は急速な拡大が続いています。ハローリビングさんとさらなる連携強化を図り、お客様の満足度向上と社会貢献に努めたいと考えています。

勤怠管理や緊急時の安否が 確認できる、企業向け 管理アプリを自社開発

コイズミ情報システム(株)は、さまざまな業種・業態の企業の情報システムを構築をしてきましたが、近年の情報・通信の多様化にあわせ、スマートフォン向けのアプリなども開発しています。

簡単操作とペーパーレスを実現した、 勤怠管理精度向上、危機管理対策用アプリを開発

コイズミ情報システムは、スマートフォンや携帯電話から簡単に情報を入力できる、企業向け管理アプリ「スマートdeタイム」シリーズを自社開発し、発売を開始しました。「スマートdeタイム-for勤怠-」は、作業開始時刻と終了時刻に端末の画面ボタンを押すだけで、管理者側に出勤退勤時刻が送信されるシステムで、直行直帰が多い業界の勤怠管理の精度向上が図れます。「スマートdeタイム-for安否-」は、災害等の緊急時に、社員の安否情報が把握できる危機管理ツールです。いずれの商品もインターネットを利用するため、緊急時でも繋がりやすく、また、GPS機能も搭載し、端末側の位置情報も把握できます。システム買取型と当社サーバーを利用するASPサービス型があり、必要規模に応じて導入方法が選ぶことができます。「スマートdeタイム-for勤怠-」は、以前からソフト開発や販売で協力関係にある応研株式会社様の就業管理ソフト「就業大臣NX」にもオプション搭載。就業管理に有効なツールとしてご利用いただいています。

当社は、本シリーズを勤怠集計業務の簡素化とヒューマンエラーの低減、ペーパーレス化に貢献するシステムとして、さらなる普及を図るとともに、企業の業務改善や効率化につながる新たなアプリの開発に努めていきます。

従業員の声

シンプル機能で使いやすいと 評価されています

勤怠管理システムの開発は、直行直帰社員を多く抱えるアパレル業界からのご依頼がきっかけでした。当初はさまざまな機能を付加していましたが、最終的には時間管理に特化したものに集約しました。お客様からは、シンプルな操作と集計業務の簡素化、GPS機能によって管理精度が向上したとの評価をいただいています。



コイズミ情報システム(株)
営業統括部 システム開発課 課長

山田 忠幸



ステークホルダーからの声

常にお客様目線でのシステムの ご提案をいただいています



応研株式会社
大阪支店 支店長

藤井 隆文 様 内之浦 隆治 様

当社の「就業大臣」のリリースに伴い、他社との差別化を図れるソフトウェアにしたいという思いがありました。モバイル打刻式の「スマートdeタイム」は、据え置き型のタイムレコーダーとは異なる、他社にはない新しいシステムです。そこで、幅広い業種のお客様へ提案するという当社の営業戦略を理解し、システム開発に柔軟に取り組んでいるコイズミ情報システムさんと協業させていただくことにしました。当社は、中堅・大企業向けERPシステム「大臣エンタープライズ」の発売を予定しています。両社のこれまでのノウハウを活用し、新たな市場でイノベーションを起こしたいと考えています。

東日本と西日本の拠点を中心に、 全国を網羅する物流ネットワークを構築

コイズミ物流(株)は、当社グループの物流機能全般を担っています。
長年の経験と協力会社との強力なパートナーシップのもとで、
グループ以外のさまざまな業種・業態のお客様にも、輸配送・保管・荷役サービスをご提供しています。
今後、さらなるサービスの向上を図るため、物流システムの再構築をめざします。

ステークホルダーからの声

信頼できるパートナーとして、
北陸地区の配送はお任せください



大西運輸株式会社
代表取締役社長

大西 勝二 様

当社は、小泉産業さん時代の1973年から北陸3県の配送業務を担っており、その流れで現在も、コイズミ物流さんの大切なパートナーとして信頼を寄せていただいています。コイズミ物流さんには、協力会社の立場をよく理解いただいており、問題が生じた時でも真剣に相談に乗っていただけます。今後も安心できるパートナーとして良好な関係を続けていきたいと考えています。新規荷主を開拓し、外販を拡大していただき、北陸地区を安心してお任せいただければと思います。

輸配送だけにとどまらない 付加機能も併せ持つサービスを展開

コイズミ物流は、東日本と西日本の拠点を中心に、全国規模の物流ネットワークを構築しています。東日本営業部は、埼玉県春日部を拠点に、静岡以東から札幌営業所が管轄する北海道エリアまでを担当。西日本営業部は、大阪府内の東大阪、津守、南港の3営業所を拠点に、静岡以西から中四国全域、福岡営業所が管轄する九州エリアまでの輸配送のほか、春日部営業所への在庫補充機能を担っています。

当社は長年にわたり、照明器具や学習家具などのグループ内企業の製品の輸配送業務に携わっています。この中で、協力会社との間で培った強力なパートナーシップと物流ノウハウは、グループ以外からも高い評価をいただき、電材、家電、家具、エクステリア商品などをはじめ、さまざまな業界から輸配送業務や流通加工ならびに保管業務を受託しています。また、関連会社の小泉成器の商品を扱っている営業所では、トレーサビリティ(履歴管理)などお客様の要望により派生する多種多様なサービスも提供しています。

物流の信頼性は、納品ミスや遅配がなく、出荷時の荷姿のまま商品を相手先にお届けすること。当社では、札幌出張所も含めた全国レベルで行う年1回の物流品質会議のほかに、エリアごとに年3回の物流品質会議を開催し、事故事例や対策情報の共有化と再発防止に取り組んでいます。

従業員の声

新しい物流の仕組み、新しいコイズミ物流をつくっていききたい

当社のグループ外のお客様の場合、その商品や出荷形態などの条件が多様なため、在庫管理や入出庫などの運用づくりが重要です。当社では、情報システムを交えて現場の意見を活かした運用づくりを行うため、万一現場でシステムの不具合が発生しても、すばやく対応できます。今後の物流市場の変化に対応できる仕組みで、新しいコイズミ物流をつくっていききたいと考えています。



コイズミ物流(株)
南港営業所 係長

篠原 武志

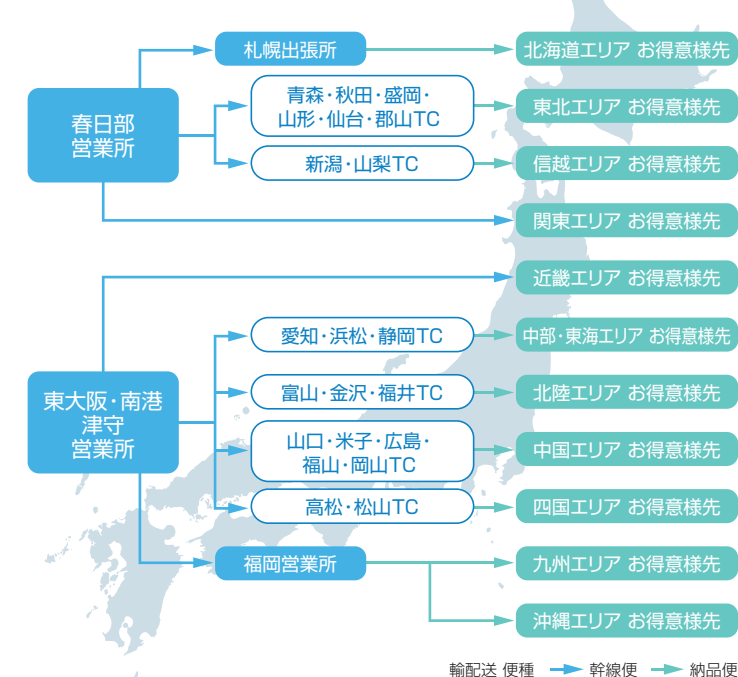


西日本物流戦略の再構築構想に着手

当社は2011年度に東日本の物流拠点を春日部営業所に集約し、東日本向け商品の一元管理体制を確立しました。一方、西日本では、グループ内の照明器具を東大阪営業所、学習家具と自立支援家具を大阪市内の津守営業所、小泉成器の家電製品を南港営業所が担当する、カテゴリー別の拠点体制となっています。

このうち東大阪営業所は、建屋も古く、設備の老朽化への対応を検討する時期に差しかかっています。これから国内外の物流市場は、ダイナミックに変化していくことが予想されますが、そうした事態に柔軟に対応していくためには、設備の老朽化対策を含めた西日本の物流システム全体の再構築が課題となってきます。当社では、今後できるだけ早期にこの課題に取り組み、さらなる物流品質の向上と顧客サービスの向上を図っていきます。

コイズミ物流の輸配送ネットワーク



ステークホルダーからの声

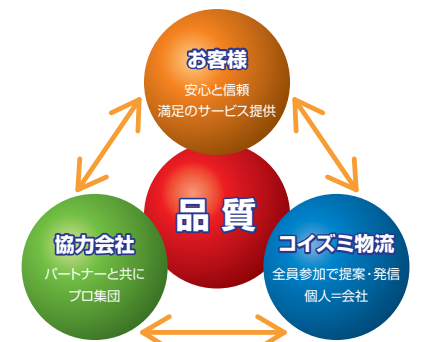
将来を見据えた、さらなる
物流改革にご協力いただきたい



株式会社たけでん
施設管理課 部長

滝野 勇 様

当社は、電気設備資材を販売し、創業50年以上になりますが、物流を外部委託するのは初めてでした。過去に何度もチャレンジしてきましたが、電気設備資材には長尺物からビスのような小さな部品まであり、また取り扱い商品のアイテム数が多いため、商品知識がないと取り扱いえないと考えていました。そんな中、コイズミ照明さんからコイズミ物流さんをご紹介いただき、当社の取り扱い商品と同等品や他社製品の物流も取り扱っていることから、当社の物流を安心してお任せすることができました。コイズミ物流さんは非常に熱心に勉強し対応していただき、現在も毎月定例会を開催し問題点などを討議し改善に努めていただいています。



次世代の人材育成支援のために インターンシップを実施

小泉産業(株)では、2012年9月に延べ8日間にわたって、当社の社員研修システムを応用したインターンシップを初めて開催しました。照明、家具、物流のグループ内3事業会社を巡るもので、関西の3大学から3年生5名が参加。うち3名の学生と、大学のキャリアセンターの職員の方2名に後日お集まりいただき、参加の感想や意義などについて、お話しいただきました。



関西大学
商学部
島見 太市 さん



関西大学
人間健康学部
大西 賢弥 さん



立命館大学
文学部
相場 令 さん



関西大学
キャリアセンター
事務グループ
副主査
岡田 裕子 様



立命館大学
教育学部 共通教育課
インターンシップオフィス
浅岡 健太郎 様



小泉産業(株)
グループ経営統括部
人事部 室長
甲斐 和弘 様

「働くとはどういうことか」 就活前に自分なりに理解し、体験したかった

甲斐 当社では、「人格の育成向上」という社是に基づき、お客様や仲間へ愛され信頼される人間的魅力あふれる人材育成をめざした社員研修を実施していますが、今回のインターンシップではそのノウハウの一部を応用しています。「働く」ということについて考えること、目標と計画を立てること、そして日々、体験を振り返ることによって自分自身を知り、行動変容につなげるプログラムとしました。

島見 私は就活を前に、社会で働くとはどういうことか理解し、体験したくてインターンシップに応募しました。実習先は、プログラムの開催主旨にあった「働くとは何かを考える」という内容に惹かれて小泉産業さんを希望しました。

大西 私もちょうど働く意味を考えたいと思ったのが参加動機です。学生生活では社会人と話すことも少なく、社員の方と話すことで、深く仕事について理解したいと思いました。

相場 私もアルバイトとは違う観点で、会社で働くことを考えたくて参加しました。1～2日間で現場体験がない

インターンシップも多い中で、このプログラムは1週間以上あり、営業同行などもさせてもらえることが魅力でした。

大西 内容もみっちりで大変でしたが、今振り返ってみると1社のプログラムに参加することで、異なる3つの業種を体験できたのは「一石三鳥」でしたね。

浅岡 これだけ長期間で、座学と実体験両方を、ほぼ新人研修に近いカタチで提供している企業はあまりありません。

岡田 この時期(3年生)の多くの学生は、さまざまな業界や業種があることを知らない段階なので、実習先を企業の知名度で選ぶ傾向があります。しかし、大切なのは実習の中身であり、インターンシップだからこそ既存の知識にとらわれず幅広い角度から仕事や企業を研究するよう推奨しています。

浅岡 学生生活の早い段階で一度社会を体験することは、自分の強みや弱み、社会に出るまでに大学でもっと学ぶべきことに気づくことができる非常に良い機会です。インターンシップに参加することは就活の準備という側面だけではなく、その後の大学生活を充実させる、大きな成長のきっかけになるという話を学生にしています。

知らない仕事や社員の話に触れ、 企業・仕事選びの視野が広がった

相場 私はメーカー志望ですが、その一端を体験して、いかに上辺の知識しかなかったかを知りました。家具の営業同行では、商品を家具店で組み立て展示する作業をしたのですが、お店の方と話し合っただけで売上が伸びる展示を考えると、BtoBの営業でもお客様に商品が届くまですべてに関わると知ったのは発見でした。こうした体験から視野が広がり、その後はどんなモノを見ても、見えないところでどんな企業がどう関わっているのかが気になるようになりました。

島見 参加前は、知っている範囲でしか企業を見ていませんでしたが、照明の営業同行で空間を創って喜んでもらう仕事があると知ったのは収穫でした。それが就活の軸になり、内装関係の会社から内定をいただくことができました。

大西 どの現場でも社員の方が真剣に話しかけてくれました。「どんなことにも対応できるドラえもんのような人をめざしている」と話す方や、物流では「届けるお客様のことを考えている」と話す方など、「社会にはすごい人がいる!」と感服。教師志望でしたが、目標になるような人に出会えたことで、企業への就職をめざすことにしました。

島見 初日に作成した計画書で、「働くとはどういうことか」を社員さんに聞くことを目標に掲げ、いろんな社員さんの考え方を聞きました。仕事にやりがいを持って取り組んでいる方が多く、そうした考えや課題図書などを通じ、どんなことも前向きに捉えていく大切さを学べました。



自分の強み・弱みを明確にでき、 社会で必要なことを気づききっかけに

大西 収穫と言えば、毎日の振り返りなどを通じて、気づいていなかった自分の強みや弱みを明確にできたことは大きかったです。他人の考えを聞いたり、自分でシートに書き込んだりすることで、自分を再発見できた気がします。

相場 チームで毎朝、前日を振り返り、互いの良かった点や改善すべき点を指摘しあう時間があったのですが、そこで自分が思っていなかった長所を指摘されたり、改めて課題に気づけたりしました。

島見 そういう意味では、インターンシップが終わった後に大学経由でいただいたアドバイスシートは、私の宝物。自分の課題や強みが書き込まれていて、就活中にずっと持ち歩き、見直しては自信を持って面接に臨みました。

岡田 一人ひとりに学校の担任の先生が書くような、心のこもったアドバイスを書いてくださるのはありがたいですね。

浅岡 シートを活用した学びの意識づけや、さまざまな角度から自分を知る仕掛けを提供していただけている点など、非常に親切で丁寧なプログラムですね。参加した学生たちはインターンシップを通じて多くの気づきを得たのではないのでしょうか。

岡田 みなさんの話を聞いて、インターンシップの重要性を改めて感じました。2016年3月の卒業生から就活の解禁時期が繰り下げられますが、選考時期がインターンシップと重なってしまい、受入れ企業が減ることが心配です。インターンシップの本来の趣旨を尊重し、大学と企業が共同して今後の対策を模索していくことができればよいと思います。

(発言者の敬称略)



時代の変化に対応し、 グループ全体で社会的責任を遂行

CSRマネジメント

理念に基づく4つの要素を柱に、
グループ全体でCSRを推進

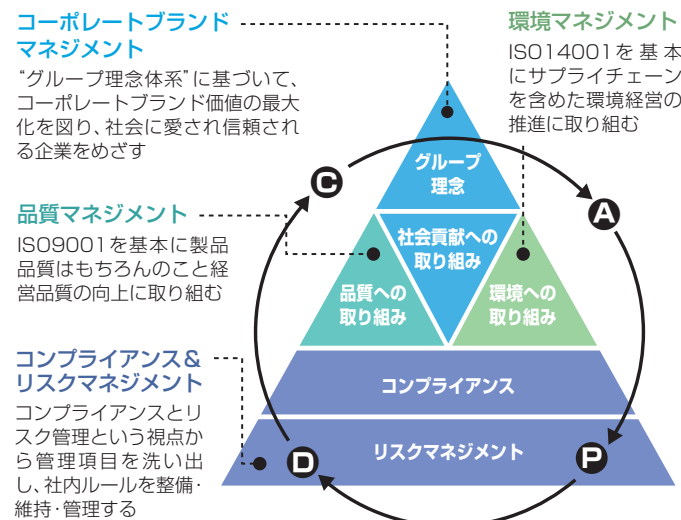
当社グループは、創業の源流にある近江商人の“三方よし”の精神のもと、300年の歴史を通して、時代とともに変化する企業の社会的責任(CSR)を果たすべく努めてきました。

2006年度にグループ経営に移行して以降は、グループ理念のもと、「コンプライアンス&リスクマネジメント」「品質マネジメント」「環境マネジメント」「コーポレートブランドマネジメント」を4つの柱に、グループ全体でCSRを推進しています。

2010年度からは、小泉産業の経営推進室が、グループ各社の現場中心のCSR活動を支援しています。第三次中期経営方針(2012～2014年度)では、大災害リスク対策や海外子会社におけるコンプライアンス確立などをグループのCSR課題に掲げて取り組んでおり、2012年度は、緊急・災害時の事業継続対応の見直しをスタートさせました。

また、従来各社で取り組んでいた社会貢献活動については、2009年度に「社会貢献指針」を制定し、グループ共通のテーマに基づく活動に取り組んでいます。

CSRマネジメントの構造



環境マネジメント

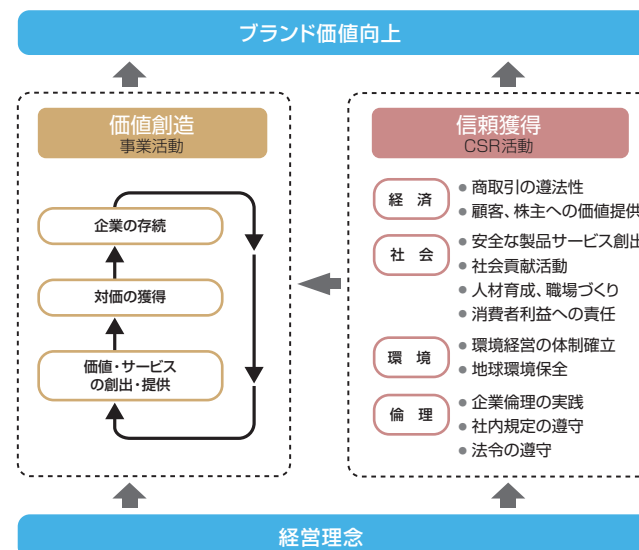
ISOとグループ共通の環境管理規定に基づいて、
環境経営を推進

環境負荷削減による持続可能な社会形成に貢献するため、グループ主要拠点で環境マネジメントの国際規格「ISO14001」の認証を取得し、小泉産業の社長を環境最高責任者として環境管理活動のPDCAを回し、推進していく体制を構築しています。2012年度末時点で、グループ9社、10事業所がISO14001の認証を取得しています。

グループ各社では、内部環境監査や環境教育などを実施し、環境マネジメントを有効なかたちで経営に活かしています。また、2008年にはグループ共通の「環境管理規定」を制定し、ISO未認証の事業所を含め、省資源、廃棄物の適正排出・管理、省エネ、グリーン調達などに取り組んでいます。

2012年度は、グループ全社で夏期の節電活動に取り組んだ結果、7～9月の電力使用量は2010年度に比べ、約20%削減できました。また、本社社屋の空調設備をガスヒートポンプタイプに入れ替え、年間電力使用量を約31%削減しました。本社、グループ各事業所では照明器具のLED化を順次進めています。

社会から信頼される企業になるために



コンプライアンス

グループ全従業員を対象に
WEBコンプライアンス研修を実施

グループ各社では、コンプライアンスを重視した経営の実践を重要課題に、従業員一人ひとりがコンプライアンス意識を持ち、行動に移していけるよう、コンプライアンス教育や啓発に注力しています。

「コンプライアンスハンドブック」や「コンプライアンスノート」を作成し、CSRや企業倫理、労働時間、ハラスメント、情報管理など、コンプライアンスの重要課題について従業員の意識啓発を図っているほか、毎年10月の「コイズミ倫理月間」には、グループ全従業員で「グループ倫理行動ガイドライン」を唱和し、企業倫理への意識を高めています。

2012年度は、「倫理月間」にあわせて、イントラを利用したWEBコンプライアンス研修も実施しました。コンプライアンスの基礎などに関する40の問題に答えることを通じて、自らの行動をチェックしていく形式で、グループ各社ともほぼ100%の従業員が受講しました。今後は年間を通じて、WEBコンプライアンス研修を定期的実施し、グループ全従業員が常にコンプライアンスを意識できるようにしていきます。

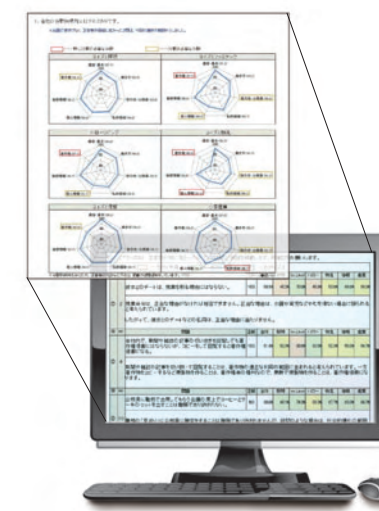
ISO14001外部審査の様子



本社サイト経営者 インタビュー



名古屋サイト 現場確認審査



WEBコンプライアンス研修の各社傾向や弱点分野をイントラで公表し、啓発を図っています

リスクマネジメント

予防から緊急事態対応まで網羅した
リスクマネジメントの規定を制定

当社グループでは、グループ各社のリスク項目を抽出し、継続したリスク対策の立案・実施を行っています。

2011年度は、製品・サービス・取引などの「事業活動」、人事・労務・財務・物流・情報管理などの「組織基盤活動」、社会とのコミュニケーション・企業ブランドなどの「CSR経営活動」の3つの視点から、考えられるリスクテーマをリスクアセスメントシートに整理。2012年度はこれをもとに、グループ各社のヒアリングを実施し、リスクを抽出しました。

また、従来、複数あったリスクマネジメントに関する規定を1本にまとめ、リスク予防から緊急事態対応までを網羅する規定を制定しました。今後は規定に盛り込んだリスク課題一覧を用いリスク抽出を実施します。

この規定では、地震・災害時の事業継続計画(BCP)を策定すべき重要業務の洗い出しから、その業務の継続計画を立案する手法についても規定しました。この手法を実施することで、今後BCP対策への取り組みを推進していきます。

従業員の声

社会に向けた共有価値を創造していきます

当社グループがそれぞれの活動を通じて社会における価値を高めるには、まず信頼に値する誠実な経営を続けていく努力を怠らないことが大切です。その中で各社が商品やサービス、事業活動で社会的責任を果たし、お客様をはじめとする利害関係者の方々と共有できる価値を見出していくことが、私たちの継続したテーマです。グループのビジョンに「私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する。愛される“価値創造の専門集団”をめざします」と掲げるように、社会が変化してもこのことは普遍的で、そしてさらに、グループとしての相乗的なメリットをお客様価値として提供できるよう向上を図っていきます。



小泉産業(株)
経営推進室 CSR推進グループ
森本 孝政

1 「ごみ減量優良建築物」として 大阪市から表彰を受けました

小泉産業の本社ビルが、2012年度の「ごみ減量優良建築物」として大阪市から表彰を受け、市長から感謝状が贈られました。

大阪市では、環境推進の一環として、ごみ減量活動に優秀な実績を挙げた大規模建築物を表彰し、さらなる活動の促進を図るとともに、一般へも告知することで、ごみ減量の意識啓発を行っています。各建築物に対するヒアリングを中心とした審査に基づき、5年間継続して優秀な成績を収めた建物には、環境局長表彰、その後、さらに5年間継続して成績が優秀な場合は、市長表彰が行われます。当社グループでは、2002年度にISO14001の認証を取得して環境活動に取り組んでおり、活動から10年の節目を記念する表彰となりました。



大阪市長からの感謝状



大阪市役所での授与式

2 全国地域清掃活動の実施率 100%達成を継続しました

当社グループでは、従来から各地区の事業所において、周辺の清掃活動を実施してきましたが、2010年度からはグループの統一活動として全国レベルで推進、実施しています。2012年度も、前年度に続いて、北海道から沖縄まですべての事業所55カ所で清掃活動を実施し、清掃後の清々しい気持ちを全国で共有することができました。各事業所の計画立案、実施状況は、社内イントラネットなどを通じて全社に発信しています。

こうした活動は、事業所近隣の皆様とのコミュニケーションが生まれるきっかけにもなっています。年間を通じて定期的に活動を実施している事業所もあり、それぞれの自主的な取り組みによって活動を継続し、定着を図っていきます。



岡山営業所



東大阪事業所



横浜営業所

3 NPOと連携しAED講習会をサポートするとともに 従業員の救命員化を支援

当社グループは、全国のコイズミ照明のショールームや来客者の多い事業所など6カ所に、AED(自動体外式除細動器：突然心停止した人に除細動と呼ばれる電気ショックを加える装置)を設置しています。

2009年度からは、NPO 法人大阪ライフサポート協会が一般市民を対象に、AEDを使った心肺蘇生法の普及を図る講習会の会場として、小泉産業本社の大会議室を提供しています。2012年度も前年度同様に5回の講習会が実施され、計71名が参加。また、これまでに救命員として必要な講習を受講した当社グループ従業員の総数は275名になりました。

2013年度からは、AED講習会を新入社員研修の一項目として組み込み、受講従業員数の増加を図っていきます。



AED講習会の会場を提供



新入社員にもAED講習を実施



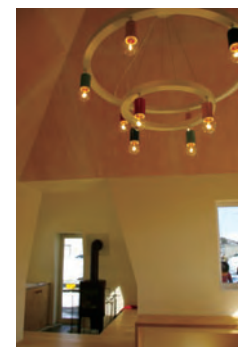
大学コンソーシアム大阪における講座



大学での講座

帰心の会

東日本大震災からの復興に向けて、建築家ができることを考え実行するために結成された会。メンバーは伊東豊雄さん、山本理顕さん、内藤廣さん、隈研吾さん、妹島和世さんの5名。被災地を訪れ、町の人々と復興について話し合うことや、各地に「みんなの家」をつくることを主な活動としている。



メインルームのシャンデリア



伊東豊雄さん(左)

4 「企業のコンプライアンス」をテーマに 大学への出前講座を継続的に実施

小泉産業では、2008年度から大学生に向けて「企業のコンプライアンス(法令遵守)」を題材にした出前講座を実施しています。インターンシップや就職活動という大切な時期を控えた大学生にコンプライアンスの重要性について理解してもらう機会の提供は、ひとつの社会貢献であると考え、実施を継続しています。

2012年度は、大学コンソーシアム大阪や日本大学、摂南大学など4カ所で計5回の出前講座を実施し、延べ209名に受講いただきました。講座では、社会人経験がない学生にもコンプライアンスを感覚的に理解してもらえるよう、わかりやすい資料を用いてその重要性を伝えるだけでなく、学生と社会人の立場の違いや、企業と社会のかかわりなどにも踏み込んだ内容を提供しています。

5 復興支援プロジェクト 「東松島こどものみんなの家」照明計画に参加

コイズミ照明は、東日本大震災で被災した方々が暮らす岩手県と宮城県の仮設住宅で、造り手と住民がともに作りあげる集会所施設「みんなの家」のプロジェクトに参加しました。国内の気鋭の建築家5名によって結成された「帰心の会」が主導している復興支援プロジェクトで、TSUTAYAで知られるカルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)様が運営するTポイントからの寄付が建設資金となっています。

「みんなの家」は、震災で多くを失った方々が互いの想いを聴き、語り、心の安らぎを得る場として、また、今後の復興を語り合うための拠点として位置づけられています。「帰心の会」の呼びかけによって、住宅設備や建材メーカー、施工会社など多数の企業がボランティアで参加。2013年1月までに6地区で建設が完了しています。

コイズミ照明が、照明計画とオリジナル照明器具の製作に協力したのは、2013年1月に竣工した宮城県東松島市の「こどものみんなの家」です。ここは他の地区と違って、子どものための施設に特化したもので、照明計画は「心地よく、いつまでもその場にいたくなるような“やさしいあかり”と子どものための“楽しいあかり”の融合」がコンセプトです。メルヘンのような建物にマッチするよう、メインルームにはポップカラーのシャンデリアが納められています。



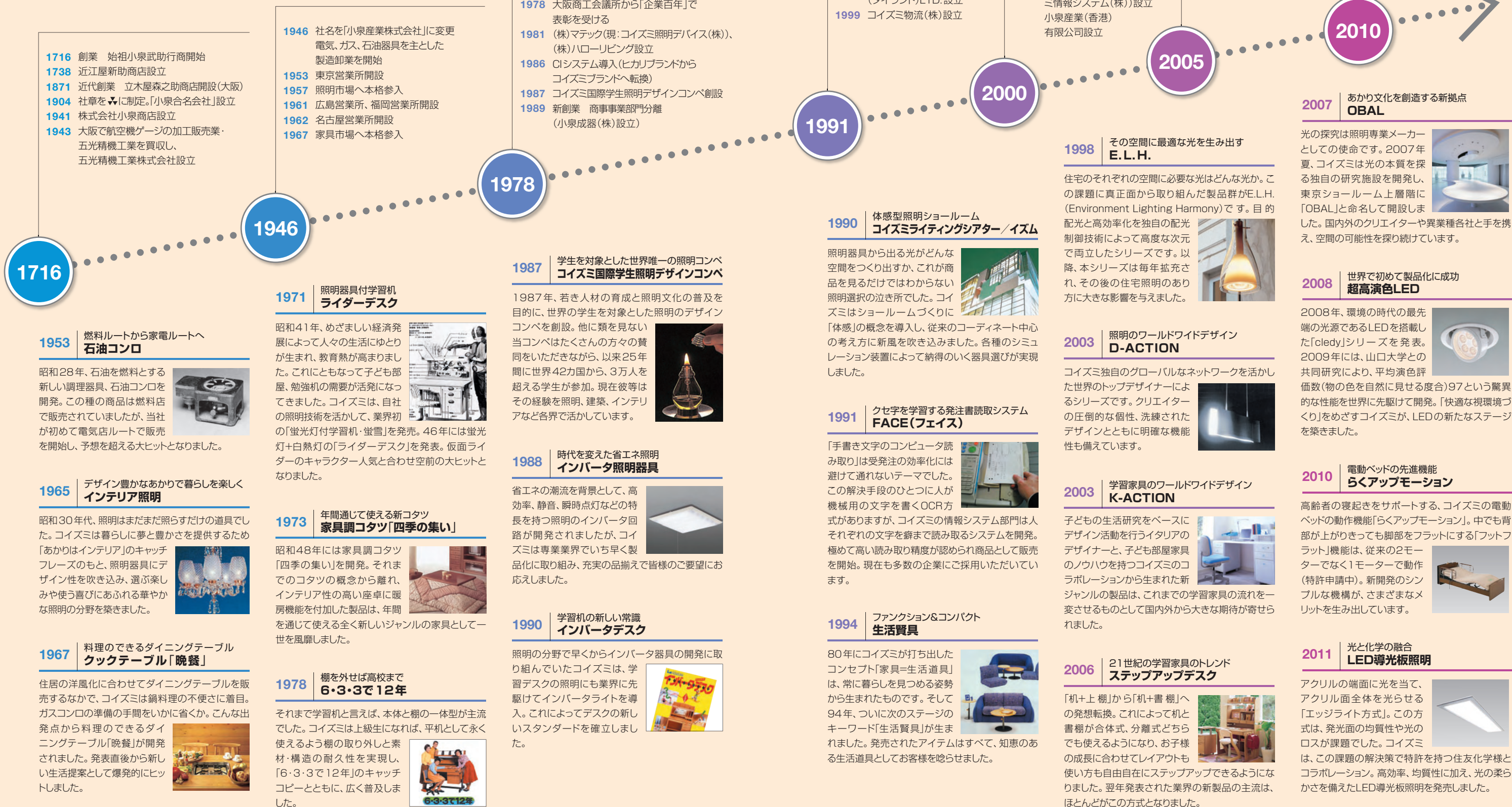
竣工式

元気に遊ぶ子どもたち

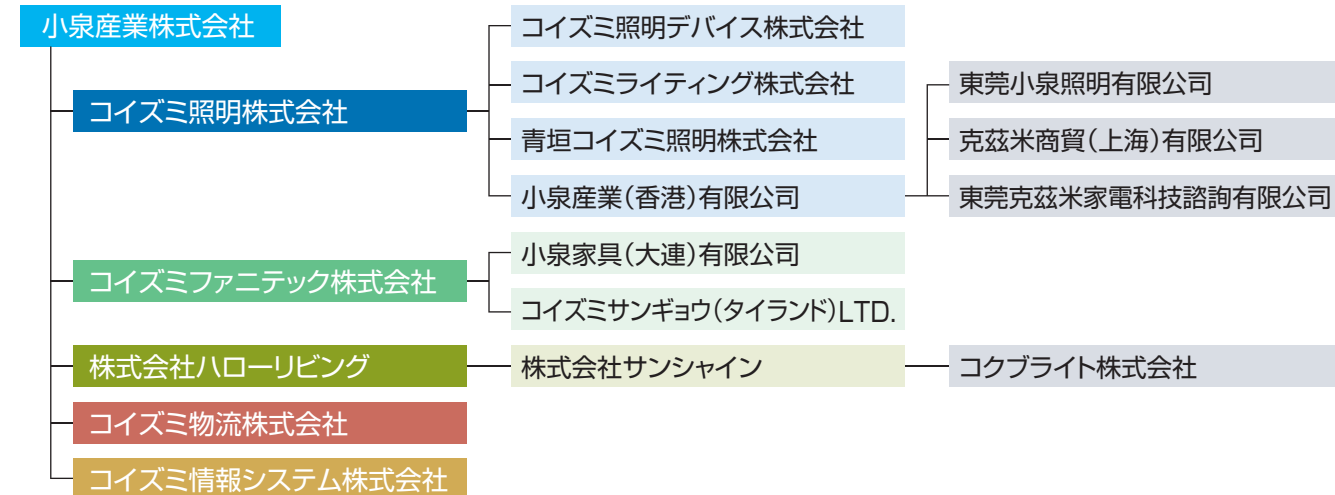
快適な空間づくりのパイオニアとして

グループ経営理念にある「新しい着眼と独自の発想」から生み出された数多くのKOIZUMIブランドの製品は、常に市場に新鮮な驚きと好感をもって受け入れられてきました。これからも快適な空間づくりのパイオニアとして、人と社会に夢と感動を提供し続けていきます。

KOIZUMI HISTORY



小泉産業株式会社グループ



小泉産業株式会社
 商 号 小泉産業株式会社
 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
 代表者 代表取締役社長 梅田 照幸
 創 業 1716年(享保元年)
 設 立 1943年6月25日
 資 本 金 1,575百万円
 従 業 員 40名(単体)
 事業内容 持株会社
 子 会 社 16社(うち連結対象 9社)
 売 上 高 1,468百万円(単体)

コイズミ照明株式会社
 商 号 コイズミ照明株式会社
 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
 代表者 代表取締役社長 梅田 照幸
 設 立 2006年4月1日
 資 本 金 450百万円
 従 業 員 588名
 事業内容 照明器具の企画・開発・製造・販売
 売 上 高 31,490百万円

コイズミ照明デバイス株式会社
 商 号 コイズミ照明デバイス株式会社
 本社所在地 〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
 代表者 代表取締役社長 梅田 照幸
 設 立 1981年6月8日
 資 本 金 10百万円
 従 業 員 21名
 事業内容 LED用部材・電子安定器・ランプ・他照明器具構成部品の販売及び輸出入、照明器具組立
 売 上 高 10,791百万円

コイズミライティング株式会社
 商 号 コイズミライティング株式会社
 本社所在地 〒529-1512 滋賀県東近江市大塚町1289-2
 代表者 代表取締役社長 村上 貴英
 設 立 1966年10月20日
 資 本 金 100百万円
 従 業 員 109名
 事業内容 照明器具の製造
 売 上 高 3,782百万円

青垣コイズミ照明株式会社
 商 号 青垣コイズミ照明株式会社
 本社所在地 〒669-3841 兵庫県丹波市青垣町口塩久町田733-5
 代表者 代表取締役社長 中島 誠一
 設 立 2010年4月5日
 資 本 金 80百万円
 従 業 員 114名
 事業内容 照明器具の製造
 売 上 高 3,353百万円

小泉産業(香港)有限公司
 商 号 小泉産業(香港)有限公司
 本社所在地 Unit 1207, 113 Argyle Street, Mongkok, Kowloon, Hong Kong
 代表者 董事長 梅田 照幸
 設 立 2002年3月11日
 資 本 金 HK\$2,078,000
 従 業 員 5名
 事業内容 照明器具の企画・開発・製造・販売
 売 上 高 HK\$179,216,088

東莞小泉照明有限公司
 商 号 東莞小泉照明有限公司
 本社所在地 No.12, Information & Industry Garden, Xihu District, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Province, P.R.China
 代表者 董事長 谷垣 正則
 設 立 2009年7月20日
 資 本 金 HK\$2,000,000
 従 業 員 199名
 事業内容 照明器具の開発設計・組立製造・販売
 売 上 高 102,035千元

克茲米商貿(上海)有限公司
 商 号 克茲米商貿(上海)有限公司
 本社所在地 RM1105.Tower NO.440, Zhong Shan RD.(S.2) Shanghai.China
 代表者 董事長 杉本 健
 設 立 2006年11月15日
 資 本 金 US\$400,000
 従 業 員 36名
 事業内容 照明器具の企画・販売他
 売 上 高 73,271千元

東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
 商 号 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
 本社所在地 3F, No.28, Wenquannan Lu, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Provinces, China
 代表者 董事長 梅田 照幸
 設 立 2008年6月2日
 資 本 金 US\$250,000
 従 業 員 31名
 事業内容 家電・照明器具の企画・開発・照明設計、品質管理等のコンサルティングサービス
 売 上 高 4,319千元

コイズミファニテック株式会社
 商 号 コイズミファニテック株式会社
 本社所在地 〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-30
 代表者 代表取締役社長 永安 勝壽
 設 立 2006年4月1日
 資 本 金 80百万円
 従 業 員 91名
 事業内容 学習環境家具及び介護機器等の企画・開発・製造・販売
 売 上 高 6,132百万円

小泉家具(大連)有限公司
 商 号 小泉家具(大連)有限公司
 本社所在地 12/F, Senmao Building, 147 Zhongshan Road, Dalian, China
 代表者 董事長 永安 勝壽
 設 立 2010年5月5日
 資 本 金 HK\$210,000
 従 業 員 4名
 事業内容 学習環境家具・インテリア雑貨の小売・卸売
 売 上 高 2,647千元

コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
 商 号 コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
 本社所在地 26th Floor ITF Tower, 140/64 Silom Road Bangrak Bangkok 10500
 代表者 代表取締役社長 宗本 邦嗣
 設 立 1995年5月24日
 資 本 金 THB5,000,000
 従 業 員 8名
 事業内容 家庭用家具・店舗用家具・特注家具・店舗用仕器の企画・開発・製造・販売
 売 上 高 THB77,530,700

株式会社ハローリビング
 商 号 株式会社ハローリビング
 本社所在地 〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
 代表者 代表取締役社長 石尾 泰裕
 設 立 1981年7月2日
 資 本 金 20百万円
 従 業 員 28名
 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事
 売 上 高 1,884百万円

株式会社サンシャイン
 商 号 株式会社サンシャイン
 本社所在地 〒813-0034 福岡市東区多の津3-7-29
 代表者 代表取締役社長 石尾 泰裕
 設 立 1975年7月1日
 資 本 金 10百万円
 従 業 員 11名
 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事
 売 上 高 677百万円

コクブライツ株式会社
 商 号 コクブライツ株式会社
 本社所在地 〒899-5102 鹿児島県霧島市隼人真孝202-2
 代表者 代表取締役社長 石尾 泰裕
 設 立 1985年3月20日
 資 本 金 10百万円
 従 業 員 4名
 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事
 売 上 高 116百万円

コイズミ物流株式会社
 商 号 コイズミ物流株式会社
 本社所在地 〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
 代表者 代表取締役社長 西原 久人
 設 立 1999年5月25日
 資 本 金 50百万円
 従 業 員 97名
 事業内容 貨物自動車運送取扱事業、貨物自動車運送事業、倉庫業、物流システム開発販売業務、物流コンサルタント業務、引越・据付業務、その他上記に付帯する関連業務
 売 上 高 4,516百万円

コイズミ情報システム株式会社
 商 号 コイズミ情報システム株式会社
 本社所在地 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5-8-21
 代表者 代表取締役社長 権藤 浩二
 設 立 2001年10月1日
 資 本 金 30百万円
 従 業 員 51名
 事業内容 IT関連のソフト開発及びコンピュータ機器販売
 売 上 高 1,272百万円

(売上高は2012年度実績)

編集後記

このレポートは当社グループの1年間を振り返り、事業活動をはじめとする社会や市場への対応の状況やCSRへの取り組みについてお伝えするものです。

昨年度もグループではさまざまな動きがありましたが、その中で「当社の今」をご理解いただくのにふさわしい活動を取り上げました。グローバル化する市場に向けた企業アライアンスの状況、高齢社会に向けた家具の開発や市場導入の状況などについて掲載し、社会的な課題や市場の要求に対してどのように取り組んでいるかをご紹介します。

さらに、企業運営の根幹となる人材育成への取り組みや、グループ

の特長を活かして動き始めた新たな社会貢献活動についても触れています。そして記事には、担当した従業員や関係先のお客様の声も添えて、当社グループの活動がより多面的に、リアルにお伝えできるようにしました。是非ともご一読いただき、当社グループへのご理解につながれば幸いです。

末筆となりましたが、編集に際していただきました、たくさんの方からのご協力に心より感謝申し上げます。

グループ経営統括部 経営推進室 CSR推進グループ

小泉産業株式会社

発行: 経営推進室 2013年7月

〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7

TEL.06-6262-1391 FAX.06-6262-1296

E-mail csrinfo@koizumi.co.jp

<http://www.koizumi.co.jp/>



この印刷物に使用している用紙は、岩手県の森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用役に立ちます。



適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



印刷工程では、有害な廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。